

令和 2 年度事業報告書

社会福祉法人親愛の里

目 次

法人本部	… P1～11
親愛の里松川	… P12～16
ほっとハート親愛	… P17～21
コーポヘルメス	… P22～24
親愛の里紙ふうせん	… P25～28
障がい者サポートセンター親愛	… P29～31
松川町地域活動支援センターあすなろ	… P32～35
エコール親愛	… P36～40
親愛の里シンフォニー	… P41～44
親愛の里夢工房	… P45～48
松川障がい者相談支援センター	… P49～51
飯島町地域活動支援センターやすらぎ	… P52～54
親愛の里そよかぜ	… P55～58
中村区障害者基幹相談支援センター	… P59～62
ハートランド森	… P63～66
熱田区障害者基幹相談支援センター	… P67～70
ジョブサポートフォルテ	… P71～74
ぱれっとハウス	… P75～76
クオーレ	… P77～81
南区障害者基幹相談支援センター	… P82～85
親愛の里保育園	… P86～88

令和 2 年度事業報告書

1. 種別・名称：社会福祉法人親愛の里

2. 概要

(1) 概況

平成 8 年 7 月に法人として認可され、平成 9 年 10 月の知的障害者更生施設(現在、障害者支援施設)親愛の里松川開所から 24 年目を迎えた。本年度も社会福祉法人制度改革の趣旨に基づき、①地域における公益的事業の実施、②事業運営の透明性の向上、③経営組織のガバナンスの強化、④財務規律の強化等を基本に取り組んだ。

A) 法人・施設等の組織体制

- a. 法人組織の運営については常務理事を専従とし、法人全体の運営を把握するとともに、業務執行理事 4 名による経営の適正化に取り組んだ。
- b. 所長(管理者)1 名が、エリア・マネージャー昇格し、現場と法人との情報共有の強化を図った。
- c. 所長(管理者)とサービス管理責任者等の兼務体制を見直し、一部の事業所を除き、それぞれ専任体制に改善した。

B) 福祉サービス

- a. ねこねこ作業所を活動場所として整備を行った。(親愛の里松川)
- b. 新型コロナウイルスへの対応として、他法人事業所との利用調整により予防の徹底を図った。
- c. 重度障害者支援加算対象者に対する研修受講を通じて、よりきめ細やかな支援スキルの向上と体制づくりに努めた。
- d. 工賃倍増プロジェクトについて計画により事業推進を行った。
- e. 親愛の里紙ふうせんにおける事業の特性を活かすため農福連携の事業推進を図った。

C) 人材確保・定着

- a. キャリアパスの充実、ライフスタイルに応じた多様な働き方等の選択肢として「限定正規職員制度」を整備した。
- b. 有資格者やスキルの高い職員等に対する福祉・介護職員等特定処遇改善加算(特定加算)の取得を行った。
- c. 人材育成・公益的事業部が、職員の労働環境の改善に向けて「職務上の配慮事項」等に関する職員アンケート等を実施した。
- d. 法人・事業所紹介ビデオ等の作成を行った。

D) コンプライアンス

- a. 虐待の疑い等嚴重注意処分案件があり、人権意識、ハラスメント防止等を図っていくために研修や OJT 等により理念等の一層の浸透と人権意識の醸成に努める必要がある。

E) 新型コロナウイルス対応

- a. 各種対策及び職員の対応等に係る法人通知、感染防止用各種備品の整備、管理者層の

リモートワークの導入により感染予防対策への取り組みを行った。

F) 収支決算概要

- a. 令和2年度の決算は、事業活動資金収支差額が115,468千円（当期資金収支差額65,802千円）となった。いずれも前年度の65,389千円（同30,242千円）と比べると176.6%（同217.6%）となり、大幅な増益となった。
最終的な当期資金収支差額（利益）では、65,802千円（利益率5.7%）であり、今後において老朽化等に伴う施設の改築等を控えるなか、中長期にわたる健全な法人経営のため、更なる収支の改善に向けた取り組みが必要となっている。
- b. 法人全体の収支では、事業活動収入が1,156,550千円に対し事業活動支出が1,041,083千円であった。事業活動収入のうち、障害者福祉サービス事業収入等は、1,119,069千円で前年度比1.9%の増加となった。
- c. コロナ禍にあり、日中活動系サービス事業所・保育園は利用者の減もあり、各事業所とも厳しい運営を強いられた。他の事業所においては、法人内の事業所間の連携により、収入の確保を図った。

3. 第3期5か年計画の3年目の評価 … 別紙1

(1) 課題等

- ① 人材確保・定着・育成制度の構築
 - A) 法人理念の周知、定着
 - B) キャリアパスとリンクした研修体系の整備（人材育成部）
 - C) コンプライアンス研修（人材育成部）
 - D) 雇用形態の拡大（限定正規職員制度の導入等）
 - E) 人事考課制度の見直し
 - F) 多様な人材の確保に向けた積極的な広報活動
- ② 福祉サービスの充実・整備
 - A) 土砂災害等の警戒区域内の事業所の改築（ほっとハート親愛等）
 - B) コーポヘルメスの統廃合（移転改築）
 - C) ユニット化による職住の分離（親愛の里松川）
 - D) 第三者評価の受審施設等の拡大
 - E) 名古屋エリアの経営改善に向けた具体的な対策
- ③ 経営継続資金の確保及び適正管理
 - A) 適正な会計報告
 - B) 月次計算書等の期限内提出
 - C) 事業所単位の経営分析と収支の改善のための具体的な取組の継続
 - D) 資金の効率的かつ安全な運用
 - E) 経営意識の醸成
- ④ 法人機能強化
 - A) 法人のビジョン等の明確化
 - B) 法人関係会議への出席率の向上

- C) 各種研修等の開催
D) 公益的事業の充実

4. 主な施設整備又は廃止等

期日	内 容	備 考
令和2年7月31日	親愛の里松川ねこねこ作業所整備	赤い羽根共同募金助成

5. 会議の開催状況

(1) 理事会

期 日	会議／出欠	議 案 等
令和2年5月29日(金)	第128回理事会 理事 7/8 名 監事 1/2 名	第1号議案 令和元年度事業報告について 第2号議案 令和元年度決算について 第3号議案 限定正規職員制度の導入について 第4号議案 就業規則の改定について 第5号議案 親愛の里保育園就業規則の改定について 第6号議案 給与規程の改定について 第7号議案 地域生活支援拠点事業に関わる短期入所利用運営規程の改定について 第8号議案 紙ふうせんスマイルの建物売却処分について 第9号議案 コーポヘルメス及びほっとハート親愛の移転改築について 第10号議案 第70回評議員会（定時評議員）の開催について 第11号議案 名古屋エリア事業所職員を対象とした福祉・介護職員等特定処遇改善加算（特定加算）の取得について ※理事 7/8 名／賛成 7 名・反対 0 名 ※監事 1/2 名／異議なし 1 名 (場所：松川町地域活動支援センター)
令和2年6月27日(土) (決議があったとみなされた日)	第129回理事会 (書面審議) 理事 8/8 名 監事 2/2 名	第1号議案 施設長等、重要な役割を担う職員の人事について ※理事 8/8 名／賛成 8 名・反対 0 名 ※監事 2/2 名／異議なし 2 名
令和2年7月11日(土) (決議があったとみなされた日)	第130回理事会 (書面審議) 理事 8/8 名 監事 2/2 名	第1号議案 グループホーム建設工事設計業者決定に伴う落札金額の承認について ※理事 8/8 名／賛成 8 名・反対 0 名 第2号議案 休職に伴う理事の辞任について ※理事 7/8 名(*特利 1 名)／賛成 7 名・反対 0 名 第3号議案 人事異動に伴う理事の辞任について ※理事 7/8 名(特利*1 名)／賛成 7 名・反対 0 名

		※第 1～3 号議案：監事 2/2 名／異議なし 2 名
令和 2 年 8 月 27 日(木)	第 131 回理事会 理事 6/6 名 監事 1/2 名	第 1 号議案 コーポヘルメス統廃合に伴う GH 建設予定地の賃貸借契約締結について 第 2 号議案 職員採用に伴う経費の見直しについて 第 3 号議案 第 1 次補正予算案について 第 4 号議案 就業規則の改定について 第 5 号議案 親愛の里保育園就業規則の改定について 第 6 号議案 親愛の里松川の給食業務外部委託業者の選定について 第 7 号議案 給与規程の改定について ※理事 6/6 名／賛成 6 名・反対 0 名 ※監事 1/2 名／異議なし 1 名 (場所：松川町地域活動支援センターあすなろ)
令和 2 年 9 月 18 日(金)	第 132 回理事会 (書面審議) 理事 6/6 名 監事 2/2 名	第 1 号議案 施設長等、重要な役割を担う職員の人事について ※理事 6/6 名／賛成 6 名・反対 0 名 ※監事 2/2 名／異議なし 2 名
令和 2 年 10 月 27 日(火)	第 133 回理事会 理事 6/6 名 監事 2/2 名	第 1 号議案 第 2 次補正予算案について 第 2 号議案 就業規則の改定について 第 3 号議案 パート職員就業規則の改定について 第 4 号議案 無期転換職員就業規則の改定について 第 5 号議案 評議員会の開催について ◎職務執行状況報告等 ※理事 6/6 名／賛成 6 名・反対 0 名 ※監事 2/2 名／異議なし 2 名 (場所：松川町地域活動支援センターあすなろ)
令和 2 年 12 月 7 日(月)	第 134 回理事会 理事 6/6 名 監事 2/2 名	第 1 号議案 12 月賞与の支給月数について ※理事 6/6 名／賛成 5 名・反対 1 名 ※監事 2/2 名／異議なし 2 名 (場所：松川町地域活動支援センター/親愛の里そよかぜ Web 会議)
令和 3 年 1 月 19 日(火)	第 135 回理事会 理事 6/6 名 監事 1/2 名	第 1 号議案 常勤理事及び職員役職の定年について 第 2 号議案 給与規程（別表 2）の改定について ※理事 6/6 名／賛成 6 名・反対 0 名 ※監事 1/2 名／異議なし 1 名 (場所：松川町地域活動支援センター/親愛の里そよかぜ Web 会議)
令和 3 年 3 月 9 日(火)	第 136 回理事会 理事 6/6 名 監事 1/2 名	第 1 号議案 就業規則及び親愛の里保育園就業規則の改定について 第 2 号議案 嘱託職員就業規則の廃止及び新規則の制定について 第 3 号議案 嘱託職員給与規程の制定について ※理事 4/6(※特利 2 名)／賛成 4 名・反対 0 名（第 1～3 議案）

		第 4 号議案 コーポヘルメスの統廃合に伴うグループホームの整備計画について 第 5 号議案 喬木村さくらの園の指定申請について 第 6 号議案 令和 2 年度第 3 次補正予算案について 第 7 号議案 令和 4 年度法人・施設等事業計画案について 第 8 号議案 令和 3 年度法人・施設等収支予算案について 第 9 号議案 施設長等重要な役割を担う職員の選任について 第 10 号議案 理事の辞任及び後任理事の選任について 第 11 号議案 任期満了に伴う役員候補者の選任について ※理事 4/6(※特利 2 名)／賛成 4 名・反対 0 名 (第 10~11 議案) 第 12 号議案 任期満了に伴う評議員候補者の選任について 第 13 号議案 任期満了に伴う評議員選任・解任委員会の委員の選任について 第 14 号議案 第 73 回評議員会の議案について 第 15 号議案 基本財産の処分について ※理事 6/6／賛成 6 名・反対 0 名 (第 1~3、10~11 議案以外) ※監事 1/2 名／異議なし 1 名 (全議案) (場所：松川町地域活動支援センター/親愛の里そよかぜ Web 会議)
令和 3 年 3 月 26 日(金)	第 137 回理事会 (書面審議) 理事 6/6 名 監事 2/2 名	第 1 号議案 3 月 9 日開催の第 136 回理事会で決議した任期満了に伴う評議員候補者の選任の取り消しについて 第 2 号議案 3 月 9 日開催の第 136 回理事会で決議した任期満了に伴う評議員選任・解任委員の選任の取り消しについて ※理事 6/6 名／賛成 6 名・反対 0 名 ※監事 2/2 名／異議なし 2 名

※ 特利：特別利害関係理事

(2) 評議員会

期 日	会 議	議 案 等
令和 2 年 6 月 14 日(日)	第 70 回評議員会 (定時評議員会) 出席 6/9 名 理事長及び業務執行理事 3 名出席	第 1 号議案 令和元年度事業報告について 第 2 号議案 令和元年度決算報告について 第 3 号議案 親愛の里紙ふうせんスマイルの建物売却処分について 第 4 号議案 コーポヘルメス及びほっとハート親愛の移転改築について ※賛成 6 名・反対 0 名 (場所：松川町地域活動支援センター/親愛の里そよかぜ Web 会議)
令和 2 年 10 月 10 日(土) (決議があったとみなされた日)	第 71 回評議員会 (書面審議)	第 1 号議案 第 1 次補正案について ※賛成 9 名・反対 0 名
令和 2 年 11 月 15 日(日)	第 72 回評議員会 出席 6/9 名	第 1 号議案 第 2 次補正案について ◎職務執行状況報告等

	理事長及び業務 執行理事 3 名出 席	※賛成 6 名・反対 0 名 (場所：松川町地域活動支援センター/親愛の里そよかぜ Web 会議)
令和 3 年 3 月 28 日(日)	第 73 回評議員会 出席 5/9 名 理事長及び業務 執行理事 3 名出 席	第 1 号議案 コーポヘルメスの統廃合に伴うグループホームの整備計画について 第 2 号議案 令和 2 年度第 3 次補正予算案について 第 3 号議案 令和 3 年度法人・施設等事業計画案について 第 4 号議案 令和 3 年度法人・施設等収支予算案について 第 5 号議案 理事の辞任及び後任理事の選任について 第 6 号議案 任期満了に伴う役員候補者の選任について →次回の評議員会で改めて協議することとし、削除する。 第 7 号議案 基本財産の処分について ※賛成 5 名・反対 0 名 (場所：松川町地域活動支援センター/親愛の里そよかぜ Web 会議)

(3) 評議員選任・解任委員会 … なし

(4) 運営協議会 … 1 回

① 令和 3 年 3 月 14 日(日)13:30 あすなろ／親愛の里そよかぜ（リモート会議）

② 出席者：運営委員 5 名(全員) 法人：理事長、常務理事、統括マネージャー等 3 名

(5) 業務執行理事会 … 17 回

(6) 経営会議 … 月例開催

(7) 人事委員会 … 6 回

(8) 虐待防止委員会 … 1 回

(9) 建設等委員会 … 8 回

① コーポヘルメス統廃合に伴う GH の建設について

② ほっとハート親愛の改築について

(10) エリア運営会議 … 月例開催

6. 規程等の整備、改定関係

(1) 限定正規職員制度の導入（内規）(5/29 理事会)

… ①短時間限定 ②職務限定 ③勤務地限定

(2) 就業規則の改定(5/29 理事会) … 限定正規職員を規定

(3) 親愛の里保育園就業規則の改定(5/29 理事会) … 限定正規職員を規定

(4) 給与規程の改定（5/29 理事会） … 限定正規職員を規定

(5) 地域生活支援拠点事業に関わる短期入所利用運営規程の改定（5/29 理事会）

(6) 就業規則の改定(8/27 理事会) … 誤記について訂正等

(7) 親愛の里保育園就業規則の改定(8/27 理事会) … 誤記について訂正等

(8) 給与規程の改定(8/27 理事会) … 資格手当に「言語聴覚士」を規定

- (9) 就業規則の改定(10/27 理事会) … 別表 1~3 の訂正(職員の種類、役職の種類、勤務時間)
- (10) パート職員就業規則の改定(10/27 理事会) … 年次有給休暇の付与日数の訂正
- (11) 無期転換職員就業規則の改定(10/27 理事会) … 年次有給休暇の付与日数の訂正
- (12) 私有車管理規程の改定(1/19 理事会) … 私有車として新たに「自転車」を明記
- (13) 給与規程(別表 2)の改定(1/19 理事会) … 自転車通勤者の通勤手当支給要件の明記
- (14) 就業規則及び親愛の里保育園就業規則の改定(3/9 理事会) … 定年(60 歳)後の再雇用に係る処遇明記、継続雇用による 65 歳後の処遇(役職定年制度)を明記
- (15) 嘱託職員就業規則の廃止及び新規則の制定(3/9 理事会) … 嘱託職員の定義見直し及び 65 歳後の処遇を明記
- (16) 嘱託職員給与規程の制定(3/9 理事会) … 嘱託職員の格付け等見直し

7. 役員研修関係

新型コロナウイルス感染予防のため未実施

8. 公益的事業

- (1) 主幹施設：松川町地域活動支援センターあすなろ … 別紙 2
まつかわ子ども福祉教室(コロナ渦で縮小して実施)

9. 職員配置(事務局)

(R3.3.31)

職名\雇用形態等	正規総合	嘱託職員	計	役職・国家資格等
業務執行理事	0	2	2	常務理事 1(社会福祉士) 財務担当理事 1(総務部長兼務)
事務局員	1	0	1	事務員 1(総務部兼務)
合 計	1	2	3	

【業務執行理事の担当分野】

- ① 宮下(常務理事) … 法人経営全般、リスクマネジメント
- ② 牧野 … 財務管理
- ③ 青木(休職中) … 人材育成
- ④ 大澤 … 支援の充実/人材育成等

10. 職員数及び退職者の状況(R3.3.31)

(1) 職員数：230 名

- ① 正規職員 105 名、嘱託・パート職員：125 名 計 230 名
- ② 役員(非常勤)：3 名、評議員(非常員) 9 名 計 12 名

(2) 退職等(H30~令和 2 年)

雇用形態\年度		平成 30 年度 (人・%)		平成元年度 (人・%)		令和 2 年度 (人・%)		退職者 総数(3 年)
退職者数	正規職員	8	7.3%	14	13.0%	13	12.4%	35
	嘱託・パート職員	18	15.7%	22	17.3%	18	14.4%	58
	合 計	26	11.6%	36	15.3%	31	13.5%	93

※1 嘱託職員は、パート職員に算入している。

※2 人数には、非常勤役員、評議員等は含まれていない。

(3) 正規職員退職

- ① 長野エリア 5人（親愛の里松川2、コーポヘルメス2、夢工房1）
- ② 名古屋エリア 6人
- ③ 刈谷エリア 2人

※1 家庭の事情、結婚、転居、職場の人間関係等による退職（親愛の里保育園）

(4) 嘱託・パート職員退職

- ① 長野エリア 11人（本部1、親愛の里松川1、コーポヘルメス5、親愛の里夢工房1、シンフォニー1、エコール親愛2）
- ② 名古屋エリア 4人
- ③ 刈谷エリア 3人

※1 長野エリアは、第2定年(65歳)等、年齢による退職者

※2 人間関係で退職するケースあり

(5) 産前産後休暇・育児休業取得者 6人

※ 代替職員の確保に課題あり

【対応策】

- ① ライフステージに応じた働き方の一環として限定正規職員制度の導入（R2年度）
- ② 各種面接会への参加、人材紹介会社の活用、学校訪問、親愛ツアー等の実施
- ③ HPのリニューアル及びスマートフォン対応のHPに変更
- ④ 職員等からの紹介制度
- ⑤ グループホームの統廃合により効率的な職員配置を検討

11. 人事、制裁処分関係

(1) 9/30 所長退職

(2) 10/1 所長昇格（昇進）：1名（名古屋エリア）

(3) 管理者等の休職：1名

(4) コンプライアンス関係（人事委員会／虐待防止委員会関係）

① ハラスメント：0件

- パワーハラスメント：0件
- セクシャルハラスメント：0件

② 苦情：1件（上司（管理者）に対する事業所運営等に対する改善の申出）

③ 虐待：0件

(5) 制裁処分等について

① 戒告処分：1名（就業規則違反）

② 嚴重注意：3名（部下の労務管理、就業規則違反（不適切な支援）、ハラスメント類似行為）

(6) 国家資格取得（資格取得補助制度の活用）

① 社会福祉士 1名

② 介護福祉士 1名

12. 重要性の高い所轄庁への届出や承認事項

(1) 親愛の里夢工房

① 人員配置体制加算(Ⅲ)の取得(3月～)

② 福祉専門職員配置等加算(Ⅰ)の取得(9月～)

(2) 喬木村さくらの園

① 食事提供体制加算取得(12月～)

13. 所轄庁(県、市町村)による一般指導監査、実地指導等

(1) 9/17(木) 親愛の里保育園書面監査(県)

14. 添付資料

(1) 令和2年度退職、採用の状況 … 別紙1

(2) 親愛の里保育園書面監査実施結果(県) … 別紙2

以上

令和2年退職、採用の状況

令和3年3月31日現在

◎職員総数 230人 100.0%

離職	数値	説 明	採用	数値	説 明	増減
退職率	13.5%	・前年度15.3%(36人)	入職率	11.7%	・前年度14.0%(33人)	-1.7%
退職者数	31人		入職者	27人		-4人

(男性：8人・女性23人)

(男性：8人・女性19人)

◎正規職員数 105人 45.7%

離職	数値	説 明	採用	数値	説 明	増減
退職率	12.4%	・前年度13.0%(14人) (うち親愛の里保育園の退職6人)	入職率	13.3%	・前年度11.1%(12人) ・R3.4/1付8人(欠員補充)	1.0%
退職者数	13人		入職者	14人		1人
長野エリア	5人		長野エリア	6人		1人
名古屋エリア	6人		名古屋エリア	5人		-1人
刈谷エリア	2人		刈谷エリア	3人		1人

(男性：4人・女性9人)

(男性4人・女性10人)

◎嘱託・パート

職員数 125人 54.3%

離職	数値	説 明	採用	数値	説 明	増減
退職率	14.4%	・前年度17.3%(22人) ・R2のGHのホームスタッフ3人	入職率	10.4%	・前年度16.5%(21人)	-4.0%
退職者数	18人		入職者数	13人		-5人
長野エリア	11人		長野エリア	10人		-1人
名古屋エリア	4人		名古屋エリア	0人		-4人
刈谷エリア	3人		刈谷エリア	3人		0人

(男性：4人・女性14人)

(男性4人・女性9人)

※1 産休・育休取得者：5人（親愛の里松川1、コーポヘルメス1、熱田基幹1、親愛の里保育園2）

※2 休職者：3人（体調不良2）

※3 非常勤理事・監事及び評議員は含まない。

◎職員総数(非常勤理事（計5人）を含む)

雇用形態	人数	説 明	割合
正規職員	105	限定正規2名含む	45.7%
嘱託職員	11	定年退職職員等	4.8%
パート職員	114	フルタイムパート	49.6%
合 計	230		100.1%

令和2年度 指導内容票

指導監査員 職・氏名	愛知県福祉局福祉部 福祉総務課監査指導室 室長補佐 伊藤 雅弘 主 事 永田 耕二	法人名	社会福祉法人 親愛の里	所在地	刈谷市
		施設名	親愛の里保育園	種別	保育所
		立会者			
区 分	指 導 内 容				摘 要
施設運営	・ 特になし				
会計経理	・ 予算を超過して執行することのないよう、補正・流用を適正に行うこと。				

令和2年度事業報告書

1. 種別・名称：障がい者支援施設 親愛の里松川

(1) 事業区分及び定員・契約者数（現員数）

事業内容：施設入所支援 39 名

生活介護事業 39 名

短期入所事業 定員 4 名

(2) 実績：1 日当たりの利用者数・平均障がい支援区分

施設入所支援 39 名 } 平均区分 5.74

生活介護事業 39 名 }

短期入所事業 2.7 名（平均利用者数） 年間利用者 125 名

2. 概要等

(1) 運営の概況

① 人権に配慮した安心と安全な生活の提供

マニュアルについては随時更新してきているが、すべてにおいて検討できておらず、今後も継続する。今年度は強度行動障害支援者養成研修等、職員のスキルアップを図る研修が中止となっている。

② 日中活動の充実を図り、地域の利用者受け入れ態勢をつくる

各グループにおいて日中活動を実施できる場所が整備され、可能な限り活動を行ってきているが、未だ人材的には不足しており可能な限りの活動提供となった。コロナウイルス感染症のため、行事や外部からの受け入れについては制限せざるを得なかった。

③ 人材の確保・育成を図る

人材確保は継続的に実施。人材紹介会社からの照会が増加傾向なため、それらの機関を活用しながら人材確保に取り組む。また、職員の育成においては、新人教育プログラム（メンター制度）を導入して新人育成に取り組んできた。

④ 地域移行に向けた支援の継続

コロナウイルス感染症の影響で地域移行への取り組みは殆どできていない。

⑤ あり方検討委員会まとめに基づく事業推進

あり方検討委員会が出された方針を、今後 6 年程度かけて実施するために計画を作成した。今年度は各グループにおいての活動の充実（活動場所の確保）、利用者の見守り体制の充実のための、間仕切り整備と見守り職員配置を実施した。

(2) 5か年計画の評価（進捗状況も含め）

① 生活場面と日中場面の分離

ねこねこベースの整備により、各グループに活動拠点が出来上がった。メリハリのある生活の提供をさらに目指していく。

② 生活介護の充実

利用者の障がい特性やストレングスに着目し、活動の種類や組み立てを行っている。会議等で障がい特性や生い立ち・アセスメントなどを確認しながら、活動内容や作業内容が充実してきている。

③ 地域移行の促進

コロナ禍において地域移行やその体験の難しさを改めて知る機会となった。今年度は実施できていないが、今後も利用者の想いを大切に、そのような経験の機会も準備したい。

④ ショートステイ受け入れの促進

コロナ禍において、受け入れの制限をせざるを得ない状況もあったが、地域資源の一つとして、個々の状況に合わせた受け入れを行ってきた。

⑤ 生活の場のあり方の検討

ユニット化と支援の向上を目指し、計画性をもって実施していく。今年度は間仕切りを整備し、見守りの体制整備を実施してきた。

3. 職員配置状況

(R3年3月31日現在)

職種\雇用形態等	正規職員	パート	計	国家資格等
施設長（管理者）	1		1	介護福祉士・保育士
サービス管理責任者	1		1	社会福祉士
生活支援員	20	17	37	社会福祉士等
看護職員	2		2	
管理栄養士	1		1	
事務員	1	1	2	
合 計	27	17	44	(常勤換算：40.3)

4. 安全防災対策

(1) 防災訓練 令和2年9月30日：夜間の火災想定訓練（避難訓練・消火訓練）

令和3年3月18日：昼間の火災想定訓練（避難訓練・消火訓練）

5. 公益的取り組みの状況

- ・特になし

6. 主な施設整備等

にばん星改修整備

ねこねこベース改修（赤い羽根共同募金）

本棟間仕切り設置工事

車両整備（リフト型ハイエース）

7. 添付資料

- (1) 実習、ボランティア等の受け入れ、職員研修状況 （別紙１）
- (2) 苦情等の状況 （別紙２）

1. 実習生受入れ状況

期日	団体名
11/26～12/4	飯田女子短期大学 2名
3/8～3/19	松本短期大学 2名

2. ボランティア受入れ状況

	団体名	内容
6月	小倉さん、橋場さん	手遊び、創作 等
7月	生田木材技建	びあ内の棚
	小倉さん、橋場さん	手遊び、創作 等
11月	林材木	下駄箱、自立課題

3. 職員研修参加状況

	研修名	人数
6月	自閉症支援セミナー	1名
7月	精神科領域セミナー	1名
8月	自閉症支援セミナー・保健部会（感染症） 権利擁護研修・知障協新任研修	5名
9月	救命救急講習、精神科領域セミナー	3名
10月	人材確保事業研修②・リスクマネジメントセミナー 権利擁護・自閉症支援セミナー	5名
11月	南信施設職員交流会	1名
12月	代表者研修・精神科領域セミナー	3名
1月	自閉症支援セミナー・サビ管研修	2名
2月	精神科領域セミナー	1名
3月	サビ管研修・嚥下研修	2名

*コロナウイルス感染症の為、リモート（Web）での開催。

令和2年度苦情受付一覧表

No.	期 日	苦情申出者氏名	苦情の種類		苦情のレベル	原因	内 容	対 応	第三者委員会 員立会い
1	令和2年6月20日	地域住民	7	その他 (職員の運転)	その他 (改めてほしい)	その他 (職員が運転する車かと 思われる車 と衝突し そうになっ た)	生田でのすれ違い時に、衝突しそうなくらい危険な状況があった。施設の職員ではないか。もし職員であるようならば運転マナーの徹底をしてほしい。	自宅を訪問しお詫びする。 職員会議において運転マナーについて周知徹底を図る。	無
2	令和3年3月13日	ショートステイ 保護者	1	サービスの内容 (職員の接遇)	要望	説明・情報 不足	ショートステイ利用の際、検温や消毒が促されなかった。以前はされていたが、前回、前々回は何かされていない。コロナの蔓延がいわれる中、検温消毒を勤めているのは施設なのでちゃんとしてほしい。	謝罪とともに、職員が統一した対応をとれるように周知・改善をすることをお伝えする。 再度職員に周知の上、消毒・検温できる機材も準備する。	無

※苦情の種類

- | | | | | | | |
|---|----------------|------|---------|---|--------------------------|------|
| 1 | サービスの内容(職員の接遇) | … 1件 | ※苦情のレベル | 1 | 要望(本人の意向、意見、主張など) | … 2件 |
| 2 | サービスの内容(質・量) | … 0件 | | 2 | 請求(法的責任に基づく権利の主張など) | … 0件 |
| 3 | 事故、被害、損害 | … 0件 | | 3 | 責任追及しレベル(契約不履行に伴う責任追及など) | … 0件 |
| 4 | 事業所運営 | … 0件 | | 4 | その他 | … 0件 |
| 5 | 契約内容 | … 0件 | | | | |
| 6 | 建物の構造 | … 0件 | | | | |
| 7 | その他 | … 1件 | | | | |

※苦情の発生原因

- | | | |
|---|----------|------|
| 1 | 説明・情報不足 | … 0件 |
| 2 | 職員の態度・言動 | … 1件 |
| 3 | サービスの内容 | … 0件 |
| 4 | その他 | … 1件 |

実績総数	2件
苦情受付	2件

令和2年度事業報告書

1. 種別・名称：多機能型事業所 ほっとハート親愛

(1) 事業区分及び定員・契約者数（現員数）

ほっとハート親愛：生活介護事業 定員 20 名 契約者数 35 名

喬木村さくらの園：就労継続 B 型事業 定員 10 名 契約者数 10 名

(2) 実績

<ほっとハート>

平均障害支援区分	5.2
区分5・6の者の割合	75%
区分6の者の割合	47%
1日当たりの平均利用者数	20.4 人

<さくらの園>

1日当たりの平均利用者数	8.6 人
--------------	-------

2. 概要等

(1) 運営の概況<ほっとハート>

①新型コロナウイルスの感染予防に努め、ご利用者の通所先 1 本化を調整した。

それに伴い 1 日当たりの来所人数が増加した為、法人内 GH（コーポ宗源原・新井）に職員を派遣し、日中活動を提供した。（利用人数の増加により、大幅な収入増となった。）

収束の兆しが見えない中 当面は現体制を継続する見込みだが、他法人との併用に対する調整が課題となっている。

②コロナ禍により ボランティアや実習の受入れ、職員の研修受講、資格取得等が困難であった。

③外出の制限もあり厳しい状況ではあったが、「絵画 工作などを通して自分を表現する」「屋内スポーツ 散歩などで身体を動かす」「音楽を楽しむ」など工夫しながら活動を提供した。仲間と協力しながら一緒に活動を楽しむことで、安心感や一体感を感じる機会を作れるよう努めた。

<さくらの園>

①年度内に新規ご利用者 2 名を受け入れ、平均利用者数も増加している。

事業所が手狭になったこともあり、11 月より喬木村による施設の増改築が実施された。厨房部分の増設により、パン作り作業の規模を拡大。改修された 2 階に休憩室を移し、1 階の作業スペースを拡大。ご利用者が個人のペースを守りながら作業できるよう配慮している。

- ②新型コロナウイルス感染拡大の影響から、受託作業が減少。年平均工賃も前年比でマイナス 4,900 円となった。
- ③ご利用者からの要望を受け、1 月より給食提供（食事提供加算取得）を開始。外部業者による配送給食をスチームで温めて提供している。
- ④令和 30 年度から一体型の運営を行ったさくらの園だが、単独での経営が安定してきたことから令和 3 年度より独立した運営を行う。

(2) 5か年計画の評価

目 標	具体的な取り組み・課題等
①施設の老朽化に伴い必要な改築を目指す。重度化、高齢化等に伴う冷暖房設備等の改善、個人のスペースを大切にできるような環境を整える。	・建設委員会にて協議中 ・令和 3～4 年度中に補助金申請予定
②午後の活動を充実させ、希望者には内職などの作業を提供できるよう工夫する。	・午前中の活動をグループに分けたり、午後に作業や運動の活動を取り入れるなど、活動の充実を図ることができた。コロナ禍により活動が制限される中ではあったが、最善の工夫を行った。
③職員の資格取得を進めることで、支援の質を上げ、加算取得につなげる。	・今年度は外部の各種研修が予定通り実施されなかった。今後オンライン講習を活用しながら計画的な受講を目指す。
④ボランティアを積極的に依頼することで、活動の充実を図ると共に地域とのつながりを強める。	・コロナ禍により、例年通りの受入れが困難だった。 ・ほっとハートでは長年続けた紙すきボランティアが、都合により中断している。
⑤公益的事業に取り組むことで、地域社会に貢献する。	・両事業所共継続して行っている。
⑥防災システムの構築。地域の福祉避難所としての役割を、町と共に検討する。	・法人全体として、防災システムの強化を図っている。
⑦高木村さくらの園の事業を拡大し、運営を切り離すことで経営安定化を図る。	・令和 3 年 4 月 1 日より、両事業所の運営切り離し。
⑧（さくらの園）パンを柱とした自主製品の製造及び販路の拡大、工賃アップを図る。高木村内の農産物などを使った生產品を開発する。	・コロナ禍で制限が大きかったが、食パンを親愛の里松川の給食に取り入れるなど、販路の拡大を図っている。また村特産のいちごを使ったパンを売り出している。

3. 職員配置状況

(R3年3月31日現在)

職種\雇用形態等	正規職員	パート	計	国家資格等
施設長(管理者)	0.4		0.4	社会福祉士
サービス管理責任者	1		1	精神保健福祉士
生活支援員等	3.5	6.4	9.9	保育士
看護職員	1		1	准看護師
職業指導員	1		1	
目標工賃達成指導員		1	1	
合 計	6.9	7.4	14.3	

4. 安全防災対策：防災訓練

	ほっとハート	さくらの園
6 月	地震想定(避難訓練、防災頭巾の被り方練習、車いすの操作方法学習会)	
9 月	火災想定(避難訓練、防災頭巾の被り方練習、搬送方法学習会)	地震・火災想定(避難訓練)
3 月	地震・火災想定(避難訓練、防災頭巾の被り方練習、避難後の流れ学習会)	地震・火災想定(避難訓練・火災ビデオ学習会)

5. 公益的取り組みの状況

<ほっとハート>

- ・松川町図書館 中川村図書館の掲示板飾りつけ：毎月季節ごとのテーマに沿った貼り絵作品を制作している。この作品を図書館の掲示板に展示させていただいているが、作品展示と併せ掲示板全体を飾り付けることで、来館者の目を楽しませる空間づくりを目指している。
- ・災害発生時における福祉避難所の設置運営を行う事業所として、平成 28 年度より松川町と協定を締結している。

<さくらの園>

- ・エコキャップ収集
- ・アルミ缶収集(地域の缶収集ステーション)

6. 主な施設整備等

<ほっとハート>

- ・送迎車(ステップワゴン)1台リース契約

- ・活動ルームストーブ付け替え

<さくらの園>

- ・調理室と2階の改修（喬木村）
- ・調理用オーブンの購入（補助金）
- ・2階（食堂、相談室）机 椅子の購入
- ・食事場所へのアクリル板の設置（喬木村）

7. さくらの園就労継続B型 工賃実績 年平均工賃 10,329 円

	自主生産品	受託作業
収入計	527,330	867,956
経費計	223,511	47,355
差し引き	303,819	820,601
一人当たり工賃	2,813	7,516

8. 添付資料

- (1) 実習、ボランティア等の受け入れ、職員研修状況
- (2) 苦情等の状況・・・なし（苦情受付、実績 0 件）

1. 視察、実習等の受け入れ状況

期日	団体名・内容等	延べ人数
7月	事業所見学	4
9月	採用実習	1
	養護学校見学（さくら）	3
10月	事業所見学、養護学校実習打ち合わせ	12
	養護学校見学（さくら）	5
11月	養護学校現場実習生・引率職員、事業所見学	10
	養護学校実習5日間（さくら）	1
12月	事業所見学	4
	利用希望者見学（さくら）	3
1月	利用希望者見学（さくら）	1
3月	事業所見学	5
	体験利用5日間（さくら）	1

2. ボランティア受け入れ状況

期日	団体名	内容
毎月1回	丸山氏・浦野氏	紙すき
毎月1回	高野氏・森永氏	手芸
毎月	鈴木氏	カレンダー原案制作
4か月に1回	サンスポート駒ヶ根	出張スポーツ

3. 職員研修参加状況

期日	研修名	延べ人数
4月		
5月		
6月		
7月	職員代表会議、法人等級研修、新任職員研修	5
8月	行政説明会、新任職員研修、災害対応学習会	3
9月	本人の思いをくみ取るセミナー、法人等級研修	3
10月	新任職員研修、くらし部会、リスクマネジメントセミナー、感染症研修会	5
11月	法人等級研修、くらし部会、感染症研修会 事例検討会、苦情対応研修、パン製造ハサップ研修	35
12月	くらし部会、新任職員研修	5
1月	法人等級研修	3
2月	事例検討会、法人等級研修	11
3月	新任職員研修、事例検討会、法人等級研修	12

※1・2・3について、今年度は新型コロナウイルスの感染予防を優先し、国、県、地域の状況によって受入れ対応等を検討した。

令和 2 年度事業報告書

1. 種別・名称：（共同生活援助）コーポヘルメス

(1) 事業区分及び定員・契約者数（現員数）・実績

定員：38 名

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
平均利用者数	34 名	36 名	36 名	35 名	34 名	35 名	35 名	36 名	34 名	33 名	35 名	35 名

2. 概要等

(1) 運営の概況（課題と対応）

- ・年度当初より、コロナ禍の対応の為、生活介護の利用者の通所先が制限される状況が続いている。また、移動支援の使用や外出・外泊にも制限をかけ、コロナ感染予防の対策に追われる一年であった。
- ・3 ホームの統廃合に向け、新ホームの建設準備として、ご利用者・ご家族への説明会、地域住民への説明会等を行ってきた。ご利用者・職員に意見を聴きながら平面図の作成も行い、業者との契約等の準備を進めている。
- ・ホームの統廃合にあわせ、入居利用者の意向を確認し、どこで暮らして行きたいかについて相談支援専門員他と連携を図り、地域移行、他施設移行支援を継続していく。

(2) 5 か年計画の評価（進捗状況も含め）

～「人権の保障と幸福を共に創る」を運営の支えとする～

① 必要なマンパワーを確保し、良質なサービス提供する

【評価】

- ・良質なサービス提供の為、毎月の会議にて現場から出されたヒヤリハットの読み合わせを行っている。年間でヒヤリハット提出件数 70 件であった。合わせて虐待防止研修を通して、日頃の支援で疑問に思うことについて意見を出しあったり風通しの良い職場作りを行ってきた。

② 拠点を集約し効率の良い運営をする

【評価】

- ・3 ホーム（ヘルメス・原町・宮坂）の統廃合に向け、上記概況のとおり進めてきた。地域の中で多様な機関と連携し、利用者の生活をデザインする

③ 利用者の持っている力を大切に支援する

【評価】

- ・コロナ禍のために関係していた機関と連携が取れず、ご利用者の生活の幅が狭まってし

まった。ホームの統廃合もあり、ご利用者の生活したい場所についての意向を再確認し、相談支援専門員等と連携しながら、複数名の利用者に対し望まれる場所への生活移行の体験等の準備を行っている。2～3名の移行支援を新年度につなげる。

④ 高齢の利用者が安心して暮らせる場所の見通しが持てるようにする

⑤ 利用者の一人暮らし、重度な方の地域生活を推進する

【評価】

- ・ 高齢・重度な利用者に特化してというわけではないが、③④のとおり、ご利用者の生活したい場所についての意向を確認し、望まれる場所に移行できるよう体験等を行っている。
- ・ ホームの位置付けとして終の住かではないものの、高齢利用者支援（介護保険への移行）のなかでスムーズに移行することは困難であると感じている。要介護度がつかないと生活の場所への見通しが難しい。そのため、ホームとしてもある程度まで生活が出来る環境作りが必要である。

3. 職員配置状況

(R3年3月31日現在)

職種\雇用形態等	正規職員	パート	常勤換算数	国家資格等
施設長（管理者）	1		0.6	社会福祉士・精神保健福祉士
サービス管理責任者	1(1)		1.4	社会福祉士・介護福祉士
生活支援員等	7	1(3)	8.2	介護福祉士・行動援護等
ホームスタッフ	(2)	15	8.4	
ナイトスタッフ	(5)	18	5.9	
看護職員	1	1	1.8	准看護師
合 計	10	35	26.3	

4. 安全防災対策

(1) 法人：防災立ち上げ訓練参加 令和3年3月10日

(2) 各ホーム：実施できず

5. 公益的取り組みの状況

・ 特に無し

6. 主な施設整備等

設備整備品	金 額	備 考
ノートパソコン1台	81,620 円	

加湿空気清浄機 5 台	350,000 円	
多機能型簡易居室設置 3 坪タイプ	2,860,000 円	
土地分筆	240,000 円	新ホーム建設予定地
設計委託費	7,260,000 円	新ホーム設計

7. 実習、ボランティア等の受け入れ、職員研修状況

行事・研修等	内 容	参加者	備考
ホーム会議	コーポの運営及び入居者の状況報告、個別支援計画検討など	ホームスタッフ ナイトスタッフ 生活支援員 サービス管理 責任者 所長	毎月
ホーム実施 学習会	虐待防止研修 感染症予防対応研修	ホームスタッフ ナイトスタッフ 生活支援員 サービス管理 責任者 所長	各3回
法人研修会	事例検討会 各等級別研修会	ホームスタッフ ナイトスタッフ 生活支援員 サービス管理 責任者 所長	
法人外研修	強度行動障害基礎・実践研修（リモート）	生活支援員 1 名	計 2 回
	精神科領域実践支援セミナー	生活支援員 1 名	計 4 回
	自閉症支援セミナー	生活支援員 1 名	計 4 回
	防火管理者研修	サビ管	計 2 回
	代表者会（リモート）	所長	計 2 回
	コミュニケーション研修（リモート）	所長	計 1 回
	リスクマネジメント研修（リモート）	サビ管	計 1 回
各ホーム 地区行事等	河川清掃・どんど焼き等 地区防災訓練	各ホーム利用者 生活支援員・ホームスタッフ	

8. 苦情等の状況

・特になし

令和2年度事業報告書

1. 種別・名称：就労継続支援 B 型事業所・親愛の里紙ふうせん

(1) 事業区分及び定員・契約者数：定員 40 名・契約者数 45 名

(2) 実績：1 日当たりの平均利用者数 28.6 名

2. 概要等

(1) 運営の概況

昨年度、事業の運営方針やサービス内容、支援の在り方等について協議を重ね、令和2年度4月より就労継続支援 B 型（40 名定員）に事業変更を行った。事業計画では、「ご利用者主体の丁寧な支援の提供」や「支援者の連携強化・支援の見える化（支援ツール等の作成）」「農福連携による事業の実施」を重点的に取り組んだ。評価としては、支援ツールの作成や実践により、ご利用者支援や作業の提供場面において支援の共通化や支援の個別化に一定の効果が見られ、支援者の負担軽減やご利用者理解にもつながった。また、グループワークの手法を用いた研修等を年間 10 回以上実施することにより、職員間の連携やチーム形成への意識を高めることが出来た。次年度への課題は、更に支援の共通化（支援マニュアル等の整備）や就労事業における生産・販売計画の作成とPDCAサイクルの実施に取り組みたい。

(2) 5か年計画の評価

令和2年度より5か年計画を見直し、「農福連携事業の推進」や「人材育成による支援の質の向上」、「地域ニーズに対応した事業運営による新規利用者の確保」を実施内容としている。初年度の課題として、事業所の特色を整理することに重点を置き、「退院後の利用先や社会復帰の第一歩の場」、「高齢者や生活介護サービスとの間のニーズ」、「多様な作業種目があり、ご利用者一人ひとりの就労スタイルに合わせて自分で仕事を選択できる事」の3点を特色として打ち出し、地域の関係機関等からの相談や新規受け入れに応じることが出来た。定員 40 名に対する年間平均利用率は 71.6%であり、新規利用の確保は引き続き課題であるが、圏域の就労継続支援 B 型事業所との差別化を図りながら地域ニーズに対応していきたい。

(3) 「農福連携、地域・企業との共同による事業の推進」：市田柿加工

市田柿の加工・出荷工程を事業所内に集約し、効率的かつ質の高い生産とご利用者が参加しやすい作業環境を整備することを事業計画とし、敷地内に柿加工を使用用途の一つとしてハウス 2 棟の建て替えと土壌の造成工事を実施した。結果として、出荷数が増加し、品質評価においては全体の 75%が秀評価となり、売り上げが昨年度比で約 1.5 倍の増収となった。ハウス内に作業を集約したことでご利用者や職員の作業負担の軽減や作業効率がアップしてことが生産量と売り上げの増加につながった。

3. 職員配置状況

(R3年3月31日現在)

職種\雇用形態等	正規職員	パート	計	国家資格等
所長(管理者)	1		1	社会福祉士
サービス管理責任者	1		1	ジョブコーチ
職業指導員等		5(3.6)	5(3.6)	
目標工賃達成指導員	1		1	
生活支援員 兼務 送迎職員・事務職員	1	2(0.7)	3(1.7)	
調理員		1(0.5)	1	
送迎職員		1(0.4)	1(0.4)	
合 計	4	9(5.2)	13(9.2)	

4. 安全防災対策

- (1) 防災訓練…年2回 9月：地震に関する学習会・非常食試食会、地震想定避難訓練
3月：火災想定避難訓練・消火訓練、消防署員による指導

5. 公益的取り組みの状況

- (1) 高森町やすらぎ荘様環境整備…新型コロナウイルス感染症予防の為、中止
(2) 日本財団チャリティー自販機の設置…公益財団法人日本財団への寄付金：63,060円

6. 主な施設整備等

- (1) ハウス建設(2棟)・土壌の造成工事…ハウス2棟の老朽化に伴う建て替えと造成を実施。
合計金額：2,501,400円

7. 工賃実績 平均月額工賃：10,737円

	自主生産事業	受託事業・その他事業
売上計	4,865,561円	2,831,187円
経費計	2,175,218円	171,380円
総支給工賃額	5,149,974円	
月額平均工賃	10,737円 (月平均支払人数：41名)	

8. 添付資料

- (1) 実習、ボランティア等の受け入れ、職員研修状況 … 別紙1
(2) 苦情等の状況 … 別紙2

＜令和2年度 親愛の里紙ふうせん 実習、ボランティア等の受け入れ状況＞

期日	機関名	内容
精神看護学実習		
6/12 学内演習	飯田女子短期大学	精神看護学実習：4名
7/14～7/22	飯田女子短期大学	精神看護学実習：4名
10/27～11/5	飯田女子短期大学	精神看護学実習：4名
養護学校 現場実習・校外学習		
7/15～7/17	伊那養護学校高等部	現場実習：3年1名
11/10～11/14	飯田養護学校高等部	現場実習：2年1名
11/17～11/21	伊那養護学校高等部	現場実習：3年1名
体験学習（職場体験）：新型コロナウイルス感染症対策の為、中止		
外部事業所 職員実習		
3/23・3/25	N 地域活動支援センター	見学等：計4名

＜令和2年度 親愛の里紙ふうせん 研修参加状況＞

期日	研修名・内容	主催
法人・事業所内研修		
5/27・9/30 2/10	虐待防止研修：講義・セルフチェック、グループワーク等	事業所
11/25	苦情対応・リスクマネジメント研修	事業所
12/23	安全運転研修	事業所
2/10	感染症対応研修	事業所
随時	ケース会議：ご利用者支援に関する検討	事業所
	等級別研修	法人
	事例検討会	法人
外部研修		
10/8	リスクマネジメント研修	長野県知的障がい福祉協会
10/27	令和2年度苦情対応システム研修会	長野県福祉サービス適正化委員会
10/29.11/9	改正食品衛生法セミナー	日本セルフセンター
12/16	安全運転管理者研修	長野県安全運転管理者協会
1/12	サービス管理責任者更新研修	長野県相談支援専門員協会
3/24	農福連携シンポジウム	長野県セルフセンター

令和2年度 親愛の里紙ふうせん 苦情受付一覧表

別紙2

No.	期 日	苦情申出者氏名	苦情の種類		苦情のレベル	原因	内 容	対 応	第三者委員 員立会い
1	令和2年	ご利用者 ご家族	1	職員の接遇	1	2	・ご利用者に対する事前の作業説明が不足しており、野菜の収穫量や収穫方法に認識のズレが生じた為、職員が作業内容に対して指摘を行ったことに對し、納得がいかないとの話えがある。 ・事前の具体的な作業説明とご利用者理解に基づく丁寧な接遇について要望が出された。 ・原因：作業説明が十分でないままに作業を開始した為、職員の想定外の作業結果に対して職員自身が混乱し、ご利用者を指摘してしまった。	・ご利用者、ご家族に對し、苦情の原因と改善策について所長より説明と謝罪を行う。改善策についてはご理解いただき、事前の作業説明に十分な時間を設けることで、再び職員と一緒に作業に従事されるようになった。 ・改善策：①具体的な丁寧な作業説明を作業開始前と作業途中に実施し、作業終了後もフォローアップを行う。②ご利用者に対する支援内容や対応を支援記録として毎日記入し、支援の振り返りを実施。定期的に所長等と面談をすることにより職員育成を図った。	無

※苦情の種類

1	サービス内容(職員の接遇)	...	1件
2	サービス内容(質・量)	...	0件
3	事故、被害、損害	...	0件
4	事業所運営	...	0件
5	契約内容	...	0件
6	建物の構造	...	0件
7	その他	...	0件

※苦情のレベル

1	要望(本人の意向、意見、主張など)	...	1件
2	請求(法的責任に基づく権利の主張など)	...	0件
3	責任追及レベル(契約不履行に伴う責任追及など)	...	0件
4	その他	...	0件

実績総数	1件
苦情受付	1件

令和2年度事業報告書

1. 種別・名称： 行動援護事業所 障がい者サポートセンター親愛

(1) 事業区分及び定員・契約者数（現員数）

行動援護事業：契約数 18 名

(2) 実績

平均障害支援区分	5.3
1 日当たりの平均利用者数	4.5 人
1 日当たりの平均利用時間	10.3 時間

2. 概要等

(1) 運営の概況

①新型コロナウイルス感染予防のため、ご利用者の通所先 1 本化を継続している（今年度は他法人との併用を停止）。法人内 GH のご利用者に対してはストレス軽減のため、外出支援の回数を増やすなどの対策をとった。

②感染予防のため、これまで行ってきた外食支援や温泉利用などを控え、ドライブや散歩の活動を中心に提供した。マンツーマンで関わることで、自分だけの時間や好きな飲み物を買える時間などを大切にた。個別の関わりの中では、自動販売機が使えるようになるなどの変化も見られた。マスク着用の上でコンビニや図書館の利用、調理実習を行うと共に、マスクをつけられるようになること自体も継続して支援した。

(2) 5か年計画の評価

目 標	具体的な取り組み・課題等
①行動援護事業を柱にした在宅支援サービスを拡充	・令和 3 年中の移動支援事業開始を検討中。
②収支バランスの改善	・コロナウイルス感染予防のため利用人数は減少したが、法人内ご利用者の利用を進めることで結果的には昨年度と同水準となった。収支バランスは改善傾向にある。
③公益的事業への取組による地域貢献	・コロナ禍で実現できなかった。

3. 職員配置状況

(R3年3月31日現在)

職種\雇用形態等	正規職員	パート	計	国家資格等
施設長（管理者）	0.2		0.2	社会福祉士、行動援護従事者
サービス提供責任者	1		1	社会福祉士、実務者研修、強度行動 障害（基礎・実践）、保育士
サービス提供職員	0.8	0.8	1.6	介護福祉士1、行動援護従事者2、 強度行動障害養成研修1
合 計	2	0.8	2.8	

4. 安全防災対策

- ・7月：大雨災害時の検討
- ・法人防災訓練、備蓄品整備等

5. 主な施設整備等

- ・事務所のアクリル板の整備
- ・公用車（スペース）1台リース契約

6. 添付資料

- (1) 実習、ボランティア等の受け入れ、職員研修状況
- (2) 苦情等の状況・・・なし（苦情受付、実績 0件）

1. 視察、実習等の受け入れ状況

期日	団体名・内容等	延べ人数
3月	体験利用（養護学校）	1

2. ボランティア受け入れ状況

なし

3. 職員研修参加状況

期日	研修名	延べ人数
4月		
5月		
6月		
7月	法人等級研修	1
8月		
9月	法人等級研修、相談支援従事者現認研修、実務者研修	3
10月	人材育成部会、相談支援従事者現認研修（2回）、実務者研修(2回)	3
11月	法人等級研修、感染症研修会、事例検討会、苦情対応研修、実務者研修(2回)	10
12月	実務者研修(2回)	1
1月	法人等級研修	1
2月	事例検討会、法人等級研修	4
3月	事例検討会、法人等級研修、実務者研修	5

※1・2・3について、今年度は新型コロナウイルスの感染予防を優先し、国、県、地域の状況によって受入れ対応等を検討した。

令和 2 年度事業報告書

1. 種別・名称： 地域活動支援センターⅢ型 松川町地域活動支援センターあすなろ

(1) 事業区分及び定員・契約者数（現員数） 定員 10 名 契約者数 32 名

(2) 実績：1 日当たりの平均利用者数 7.1 名

2. 概要等

(1) 運営の概況

コロナウイルス感染防止のため、行政指導のもと利用時間の制限と飲食や外出を伴う活動は中止となった。事業所内にて、グループワークや SST、マナー講座（身だしなみ、食事）等、コミュニケーション能力の向上を中心としたプログラムを取り入れた。しかし、利用や活動内容の自粛があり、利用者数が大幅に減少している。感染防止対策をしながら魅力あるプログラム企画が課題である。

就労を希望する方が多いため、就労系事業所の職員と利用者による『働くために必要なこと』と題した講話を行った。また、自主製品を道の駅にて店頭及びネット販売ができるようになり、利用者の就労意欲の喚起と地域への啓発に繋げたい。

元気センター（仮称）の完成が令和 5 年 3 月に決定し、移転に向けて放課後等デイサービス事業との事業連携を計画していたが、職員体制の変更等もあり実施できなかった。計画内容の変更が必要である。

(2) 5 か年計画の評価

① 地域に開かれた事業活動の展開

今年度は主催するウエルカムデーや町内行事も中止となり、地域の方との交流や情報発信が十分に実施できなかった。今後は、HP や ICT の活用を検討したい。

② 松川町の利用者ニーズの掘り起こしとつなぎ支援

今年度 5 名の方が就労継続支援 B 型事業所へつながることができた。しかし、利用者数が減少となり、保健師や相談支援専門員と連携し、見学の受け入れを行ったが新規利用者は 2 名のみであった。利用の定着と新規利用者の確保を目指していく。また、利用される方の障がいが多様となり、職員のスキルが求められる。来年度は事業所内での学習の機会を増やし、統一した支援が行えるように取り組んでいく。

③ 地域活動支援センターⅢ型事業の定着

コロナウイルスの影響もあり、利用者数が減っている。地域活動支援センターの役割を再確認して、現状に合わせた取り組みや活動を提供することが大きな課題である。

3. 職員配置状況

(R3年3月31日現在)

職種\雇用形態等	正規職員	パート	計	国家資格等
施設長（管理者）	0.2		0.2	社会福祉士、精神保健福祉士
指導員	1	2	3	保育士
合 計	1.2	2	3.2	

4. 安全防災対策

(1) 防災訓練 9月（地震）、3月（火災）

5. 公益的取り組みの状況

まつかわこども福祉教室あいむへの参加

6. 主な施設整備等

なし

7. 添付資料

(1) 実習、ボランティア等の受け入れ、職員研修状況

(2) 苦情等の状況

実習受け入れ状況

期日	団体名	内容	人数
11月28、30日	福祉の職場体験	施設実習	1名
3月23、25日	ソーシャルファームなかがわ	施設実習	各2名

視察・見学受け入れ状況

期 日	団体名	内容	人数
5月29日	S氏、相談支援専門員	施設見学	2名
6月16日	中川村包括支援センター職員	施設見学	1名
9月7日	松川町長、副町長、町議会議員	視察（トイレ環境）	12名
10月2日	M氏、エコール親愛職員	施設見学	2名
10月29日	Y氏、相談支援専門員	施設見学	2名
11月5、9日	信濃毎日新聞記者	利用者取材（元気センター）	1名
1月28日	T氏 相談支援専門員	施設見学	2名
1月28日	Y氏	施設見学	1名
2月16日	K氏 相談支援専門員	施設見学	2名
2月19日	Y氏 相談支援専門員	施設見学	2名
2月22日	K氏 GH職員	施設見学	2名

職員研修、会議等

期 日	研修名	参加者
毎月	町連絡会	全職員
毎月	くらし部会（精神障がい）（自立支援協議会）	高坂、三村
4月～3月	法人新任研修 全4回	小日向
9月～3月	元気センター（仮称）検討委員会他	高坂、三村
12月8日	障がい者虐待防止研修、感染症研修（法人）	全職員
12月17日	精神科領域実践支援セミナー（知障協）	久保田、小日向
2月9日	事例検討会（法人）	小日向
3月19日	事例検討会（法人）	久保田、小日向

令和2年度苦情受付一覧表

別紙2

No.	期 日	苦情申出者氏名	苦情の種類	苦情のレベル	原因	内 容	対 応	第三者委員会
1	令和2年8月6日	利用者Kさん	4 事業所運営	1	1	コロナウイルス感染防止対策の通知文章の内容が分かりづらいとの苦情がある。通知文章の『自宅での生活が可能な方はなるべく自宅で過ごしていただき～』の内容に対し、「自宅で過ごさせる方ってどんな障害でどんな病気でどんな状態でどんな過ごし方をしている人なのか。もっと分かりやすく書いて欲しい」とのこと。	総務課に問い合わせの電話があり、翌日にあすなろ支援より電話をする。不明な内容であったことを謝罪し、具体的に説明をする。また、内容については改善していくと共に、今後は不明なところがあればすぐにあすなろに問い合わせてもらえれば返答することを説明する。「はいはい。もういい。」と納得されずに電話を切るが、その後は変わらず通所されている。	無

※苦情の種類

- 1 サービス内容(職員の接遇) … 0件 ※苦情のレベル 1 要望(本人の意向、意見、主張など) … 1件
 2 サービス内容(質・量) … 0件 2 請求(法的責任に基づく権利の主張など) … 0件
 3 事故、被害、損害 … 0件 3 責任追及しレベル(契約不履行に伴う責任追及など) … 0件
 4 事業所運営 … 1件 4 その他 … 0件

- 5 契約内容 … 0件
 6 建物の構造 … 0件
 7 その他 … 0件

※苦情の発生原因

- 1 説明・情報不足 … 1件
 2 職員の態度・言動 … 0件
 3 サービス内容 … 0件
 4 その他 … 0件

実績総数	1件
苦情受付	1件

令和2年度事業報告書

1. 種別・名称：放課後等デイサービス エコール親愛

(1) 事業区分及び定員・契約者数 定員 10 名 契約者数：32 名

(2) 実績：1 日当たりの平均利用者数

R2	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
稼働日数	22	18	22	23	20	22	25	21	22	20	20	24	259
利用児数	16	15	17	20	24	20	20	20	20	23	19	23	
延人数	246	204	241	272	266	259	296	242	280	236	227	297	3068
平均利用者数	11	11	11	12	13.3	11.7	11.8	12	12.7	11.8	11	12	11.7
3 カ 月 平 均	11			12.3			12.1			11.6			

2. 概要等

(1) 運営の概況

- ・延べ人数は 3,068 人と昨年度より 228 人の増加。平均利用児童数は、11.7 人と利用率 100%を超える。年々利用のニーズが高まっている。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い 4、5 月と休校となり、国からの要請を受け、午前中からの受け入れ体制を整備。休校明け以降も利用率は下がりず、7 月からは更に利用率が上がる。
- ・5 月中旬に事業所が移転。新しい自治会の皆さんは様々な場面で声をかけてくださり、あたたかく迎えていただく。子どもたちについては、引っ越し前から 2 カ月間の慣らし期間を設けたことで、大きな混乱もなくスムーズな移行ができた。

(2) 5 か年計画(平成 30 年度～令和 4 年度)の評価

方針 1：安心・安全、居心地のよい事業所の環境整備を進める

- ① 事業所の移築に向け、利用児童たちが安心して過ごせる環境の整備を進める。
- ② 共生社会を実現するための環境整備を進める。

(評価) 耐震等の問題から 5 月中旬に事業所の移転を実施。安心して過ごせる環境となると共に、引っ越し先は一軒家でより家庭的な雰囲気となり、子どもたちも居心地の良い場所となる。これまで議論してきた元気センター(仮称)については、令和 5 年 3 月開所と決定。

方針 2：地域に開かれた信頼される事業所作り

- ① 福祉サービスの枠を超えた事業展開
 - ・不登校児の居場所作りや自然体験型の活動を通じた地域の教育力向上への支援。
 - ・世代間交流を含め、人と人が繋がる事業提供。

(評価) 地域の方によるモノづくり教室を新たに開催。活動ボランティア(講師)として、子どもたちにモノづくりの楽しさを教えていただく。また、毎月地域のごみ拾い活動やエコールだよりの配布などを行い、地域へ出ていく仕掛けを作る。

松川町議会議員との定期的な懇談会を設け、福祉、教育について議論を交わす。

方針 3：定員の見直しを含めた新たな事業展開

- ① この期間の利用実績を見ながら、定員の拡大、新たな事業展開など様々な方向性の検討を行い、必要に応じ事業を進める。

(評価) 今年度は新型コロナウイルス感染症対策に伴う利用制限等が議論の中心となり、検討は進んでいない。しかしながら、経営的に現状の 10 名がベストと考える。

(3) 活動報告

- ・新型コロナウイルス感染症の感染防止から、公共施設の利用自粛、調理活動の自粛を行い活動の幅も狭まる。しかし、自然の中で人や地域との繋がりを感じ、森林浴、散策、昆虫採取、川遊びなどの活動を実施。自分たちで決まりを守る、仲間と協力する、達成感、人との出会いを体験的に学べる機会とした。
- ・地域からの役割として、不登校児（引きこもりも含む）支援を行った。登校はできないが、エコールに継続して通所することで、不登校のきっかけや不安に応じた環境づくりの支援を行い、主体的に社会的自立や学校復帰に向かうように学校と連携している。

3. 職員配置状況

(R3 年 3 月 31 日現在)

職種\雇用形態等	正規	パート	計	国家資格等
施設長（管理者）	(1)		(1)	社会福祉士、精神保健福祉士
児童発達支援管理責任者	1		1	介護福祉士
児童指導員・指導員	2	3	5	保育士 2
事務員	(1)		(1)	
合 計	3	3	8	

4. 安全防災対策

- (1) 防災訓練：2 月・3 月に計 3 回開催

5. 公益的取り組みの状況

まつかわ子ども福祉教室あいむへの参加

6. 主な施設整備等

- ・新型コロナウイルス感染症に伴う助成金で、加湿器 2 台とエアコンを購入。
- ・感染対策に伴う活動スペースの確保を目的に、レンタルハウスを導入。

7. 添付資料

(1) 実習、ボランティア等の受け入れ、職員研修状況

…別紙1

(2) 苦情等の状況

…別紙2

実習・ボランティアの受け入れ状況

日付	氏名・所属	内 容
8月～12月	飯田女子短期大学幼児教育科学生 5名	実 習
不定期	個人：小野寺様 （活動講師）	ボランティア
8月	個人：田中様 （活動サポート）	ボランティア

職員研修

研修名	研修名
新任職員研修	飯伊圏域自立支援協議会子ども部会
法人内研修 各等級別研修	障がい者の権利擁護研修
法人内研修 各種事例検討会	上伊那圏域自立支援協議会
法人内研修 虐待防止研修	子ども応援 プラットホーム
事業所 感染症研修	人材育成研修(2年間の研修)
法人内研修 コミュニケーション研修	
法人内研修 自閉症分野事例検討会	

令和2年度苦情受付一覧表

No.	期 日	苦情申出者氏名	苦情の種類	苦情のレベル	原因	内 容	対 応	第三者委員 員立会い
1	令和3年3月15日	利用児童の保護者	1 職員の接遇	要望	職員の態度、言動	支援や子供への対応について、預ける親として安心できないとの意見。1/16の服薬の報告遅れと帰宅時に見送り支援がなかったこと、3/4に他子どもが児童に背中を蹴られた。児発管に苦情があり、その後管理者が面談をする。	改めて謝罪をし、再発防止について検討をしたことを伝える職員会議で周知し、①連絡帳の書き方、メール、電話を活用して保護者が知りたい情報を報告できるように会議で共有。 ②子どもたちの見送り支援については、玄関外まで見送るように職員会議で共有。	無
2	令和3年3月19日	利用児童の保護者	1 職員の接遇	要望	職員の態度、言動	①無断で子どもたちが学校から事業所まで歩いて帰したことにについて、報告がなかったこと、危険回避ができなため、再発防止をしてほしい。②職員が子どもを腕を引っ張って指導した。③職員の電話対応が悪い。	謝罪するとともに、詳細について説明する。①については、再発防止策を徹底するため職員会議などで共有。②については、思春期の子どもへの理解と支援の考え、個別支援を見発管から指導。③電話対応については、特定職員に指導。	無

※苦情の種類

- 1 サービス内容(職員の接遇) ... 2件
2 サービス内容(質・量) ... 0件
3 事故、被害、損害 ... 0件
4 事業所運営 ... 0件
5 契約内容 ... 0件
6 建物の構造 ... 0件
7 その他 ... 0件

※苦情のレベル

- 1 要望(本人の意向、意見、主張など) ... 2件
2 請求(法的責任に基づく権利の主張など) ... 0件
3 責任追及しレベル(契約不履行に伴う責任追及など) ... 0件
4 その他 ... 0件

※苦情の発生原因

- 1 説明・情報不足 ... 0件
2 職員の態度・言動 ... 2件
3 サービス内容 ... 0件
4 その他 ... 0件

実績総数	2件
苦情受付	2件

令和2年度事業報告書

1. 種別・名称： 就労支援継続 B 型事業所 親愛の里シンフォニー

(1) 事業区分及び定員・契約者数（現員数）

定員：20 名 契約者数：27 名

(2) 実績：1 日当たりの平均利用者数

事業名	就労継続B				定員	20							
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数	21	18	22	20	18	20	22	19	20	19	18	23	240
延べ利用者数	443	382	487	440	395	423	450	347	349	350	329	401	4796
利用率(%)	105.5	106.1	110.7	110.0	109.7	105.8	102.3	91.3	87.3	92.1	91.4	87.2	99.9
3ヶ月平均(%)	107.1	106.4	107.4	108.9	110.1	108.5	105.9	99.8	93.6	90.2	90.2	90.2	101.5

2. 概要等

(1) 運営の概況

- ① 令和2年度は新型コロナウイルスの影響により、月額平均工賃が9,478円と10,000円を下回る結果となり、前年度と比較して2割減少している。これは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、喫茶店営業と出前喫茶を4か月以上の営業自粛を図ったこと、年3回の喫茶イベントをすべて中止したこと、地域の販売会がすべて中止となりコーヒー販売や自主製品販売が出来なかったことにより、喫茶収入が前年度に比べ4割ほど減少している。また、受託作業や施設外就労に関しても受注の滞りや作業の廃止、施設外就労では日数や人数の制限等がかかり、こちらも2割ほど収入が減少している。収入だけではなく、作業自体が少なくなってしまうことにより、利用者へ作業を提供することが難しい場面も多く、時間を持て余してしまうこともあった。

上記の課題を解消すべく村の補助金事業を利用し、店舗のソーシャルディスタンス確保と誘客増加を図るために喫茶店の改修工事を年度末に行っている。

- ② 令和2年度の平均利用率は101.5%と前年度を下回っているものの、100%以上を維持することは出来ている。しかし、毎月の利用率はばらつきが大きく重点目標の一つであった、『利用者が安定して通い、毎月の利用率100%以上を維持』は達成できているとは言い難い。利用者が休みがちになったり、入院があったりした要因として、新型コロナウイルスにより作業を安定的に提供ができなかったことでモチベーション維持がうまく図られなかったこと、社会全体が不安定な情勢であり、利用者もその影響を少なからず受け、精神安定が図られなかったことなどが要因として考えられる。

(2) 5か年計画の評価（進捗状況も含め）

- ① 村の補助金事業を利用し、年度末に旧喫茶店と1階作業場を改修。また、県の補

助金事業も利用し、備品などの整備を図った。それにより喫茶事業の拡大を進めることができた。

- ② 工賃や利用率、地域貢献等は新型コロナウイルスの影響を大きく受け厳しい状況であった。

3. 職員配置状況

(R3年3月31日現在)

職種\雇用形態等	正規職員	パート	計	国家資格等
管理者	(1)		(1)	介護福祉士
サービス管理責任者	(1)		(1)	
生活支援員	2	2	4	
職業指導員	1		1	
目標工賃達成指導員		1	1	
事務員	1		1	
合 計	5	3	8	

4. 安全防災対策

(1) 防災訓練

令和2年11月4日(水)：火災想定避難訓練

5. 公益的取り組みの状況

なし

6. 主な施設整備等

- ・村の新型コロナウイルスに関する補助金事業を利用し、1階作業場、旧喫茶店を改修。
- ・県の生産活動活性化支援事業を利用し、喫茶備品等の購入と整備を図る。
- ・県の新型コロナウイルス感染拡大防止補助金事業を利用し、加湿器4台等購入。

7. 工賃実績 年平均工賃 9,478円

	喫茶事業・自主製品等	受託作業・施設外就労等
収入計	2,382,528円	1,791,619円
経費計	1,062,284円	0円
総支給工賃額	3,112,024円	
月額平均工賃	9,478円 (支払い延べ人数：328人)	

8. 添付資料

- (1) 実習、ボランティア等の受け入れ、職員研修状況
- (2) 苦情等の状況

実習、視察、ボランティアの受け入れ状況（令和２年４月１日～令和３年３月３１日）

期 日	氏名・機関名等	人 数	内 容
４月６日(月)	生協相談支援員と利用者、ご家族	４名	見学
７月９日(木)	こころの医療センター駒ヶ根研修医、SW	６名	見学
９月１６日(水)	こころの医療センター駒ヶ根デイケア	５名	見学
１１月５日(金)	カフェコーデ（伊那市）	１名	コーヒー講座
１１月１９日(水)	法人内事業所見学	１０名	見学

職員研修参加状況（令和２年４月１日～令和３年３月３１日）

期 日	研修名	開催地	延べ人数
７月２１日(火)	２・３等級研修（法人内研修）	松川町	１
７月２８日(火)～２９日(水)	甲種防火管理新規研修	駒ヶ根市	１
７月２８日(火)	採用時諸規定研修（法人内研修）	松川町	１
９月１５日(火)	２・３等級研修（法人内研修）	松川町	１
１０月２９日(木)	改正食品衛生法オンラインセミナー	WEB研修	２
１１月９日(月)	改正食品衛生法オンラインセミナー	WEB研修	２
１１月１１日(水)	業種別 HACCP の考えを取り入れた衛生管理法	WEB研修	８
１１月１７日(火)	２・３等級研修（法人内研修）	松川町	１
１１月１７日(火)	１等級研修（法人内研修）	飯島町	２
１１月１８日(水)	１等級研修（法人内研修）	飯島町	１
１１月２４日(火)	第１回事例検討会（法人内研修）	WEB研修	８
１月１２日(火)	サービス管理責任者更新研修	WEB研修	１
１月１４日(木)	感染症予防研修（法人内研修）	WEB研修	８
１月１８日(月)	令和２年度長野県自立支援協議会就労支援	WEB研修	２
１月２０日(水)	虐待防止・理念研修（法人内研修）	宮田村	８
１月２６日(火)	２・３等級研修（法人内研修）	松川町	１
２月９日(火)	第２回事例検討会（法人内研修）	WEB研修	８
２月２４日(水)	１等級研修（法人内研修）	飯島町	２
２月２５日(木)	１等級研修（法人内研修）	飯島町	１

3月4日(木)	新任職員研修（法人内研修）	松川町	1
3月11日(木)・12日(金) ・15日(月)	サービス管理責任者基礎研修	WEB 研修	1
3月18日(木)	R2 年度工賃向上計画セミナー(Ⅱ)	WEB 研修	2
3月19日(金)	第3回事例検討会	WEB 研修	8
3月25日(木)	2・3 等級研修（法人内研修）	松川町	1
3月26日(金)	R2 年度第2回総会及び講演会	WEB 研修	1

令和2年度事業報告書

1. 種別・名称：生活介護事業所 親愛の里夢工房

(1) 事業区分及び定員・契約者数（現員数）

生活介護事業：定員 20 名 契約者数 19 名(R3.3 現在)

(2) 実績

平均障害支援区分	4.6
区分5・6の割合	51%
区分6の割合	23%
1日当たりの平均利用者数	16.9 人

2. 概要等

(1) 運営の概況

・新型コロナウイルス感染予防を最重要課題として取り組んだ。感染拡大時、複数事業所利用者は一事業所利用に調整した。状況に応じて個々に利用を控えていただき、電話連絡や居宅訪問を通じて健康管理・ストレス軽減に努めた。その中で、年齢や身体の状態を考慮し、夢工房を退所することとなるご利用者が相次いだ。

感染防止を徹底する為、座席の配置の工夫、ロールスクリーンの設置、食器類の乾熱滅菌等を行った。また県看護協会の視察を受け、感染症マニュアルの徹底に取り組んだ。

コロナ禍で作業やお楽しみ活動を満足に提供することが厳しい状況となったが、ニュースポーツや散歩、室内で楽しめるカラオケや映画、他法人の出前喫茶の開催など、感染対策をしながらも良い方向に活動を改める年となった。

・収支に関しては 予想外の利用者退所があったものの、障害支援区分の見直し、福祉専門職員配置等加算(Ⅰ)の取得など、適正な事業運営に取り組んだ。結果として前年度より約 4,500 千円を超える増収となった。支援区分5・6の割合が全体の半数以上となった為、来年度は職員体制を整え、人員配置体制加算(Ⅱ)の申請(約 5,000 千円増収の見込み)を検討していきたい。

活動スペースの手狭さは長年の課題である為、早期に宮田村と協議を進め、分室の設置を進めていきたい。人数のバランスを見ながら、再来年度に向け事業所の特性に合わせた新規ご利用者の受け入れを検討していきたい。

(2) 5か年計画の評価

目 標	評価
① 人材育成の推進：OJT、研修等を通じて職員のレベルアップを図る。	・コロナ禍で外部研修が実施されず、計画的な受講はできなかった。来年度は積極的な参加を進めていきたい。 ・令和元年度の大きな体制変更に伴い、事業所として働き方を見直した。ミーティングの在り方や支援方針の統一など、チーム支援としての課題はまだまだ大きい。チーム全員が機能的に動けるよう、定期的な理念研修、他職員を認め助言し合える会議作り、決定事項の文書化・共有に取り組んでいきたい。
② 事業所の活動スペース拡張：ご利用者増に伴い、個室を増設、拡張する。	・活動スペースの手狭さは長年の課題で、特に自閉症ご利用者の居場所確保は急務である。令和3年度早期に宮田村と協議を行い、分室の設置を検討していきたい。設置にあたり、事前に親愛の里松川の自立作業室を見学し、職員間で構想をまとめていく。
③ 公益的事業に取り組むことで、地域社会に貢献する。	・コロナ禍で養護学校や地域イベントでのバザーは開催できなかったが、感染対策を徹底した上で多くの活動（後述）に取り組めた。特にアート作品を展示する機会が増え、地域の方にご利用者への理解を深めていただくことに繋がった。

3. 職員配置状況

(R3年3月31日現在)

職種\雇用形態等	正規職員	パート	計	国家資格等
施設長（管理者）	0.4		0.4	社会福祉士
サービス管理責任者	1		1	介護福祉士
生活支援員等	3.1	3.4	6.5	社会福祉士2・保育士
看護職員		0.7	0.7	看護師
合 計	4.5	4.1	8.6	

4. 安全防災対策：火災・地震を想定した防災訓練

9月：避難・通報訓練、消火器の体験利用、非常食の試食

3月：防災頭巾を使用した避難・通報訓練、負傷者の応急処置、簡易担架の作成・搬送体験
防災DVD学習

5. 公益的取り組みの状況

- ・宮田村図書館 作品展示

カレンダーの原画（ちぎり絵）を、図書館の壁面に飾っている。

入館者から非常に好評で、館内の雰囲気と和ませることにつながっている。

- ・宮田小学校支援学級からの依頼で、児童達の買い物体験を企画。事業所内にブースを作成し、ご利用者が店員となり自主製品を販売した。仕事の様子を見学する機会もあり、ご利用者と児童達はお互いに挨拶や会話をしながら交流を深めていた。

6. 主な施設整備等

- ・食器洗浄機の購入（補助金）
- ・冷蔵庫の購入（補助金）
- ・建物内排煙口オペレーター修理（補助金）
- ・送迎車（福祉車両ステップワゴン）リース契約

7. 添付資料

- (1) 実習、ボランティア等の受け入れ、職員研修状況
- (2) 苦情等の状況…なし（苦情受付、実績 0 件）

1. 視察、実習等の受け入れ状況

期日	団体名・内容等	延べ人数
6月	上伊那圏域障がい者総合支援センター紹介 IM さん見学	1
	上伊那圏域障がい者総合支援センター紹介 IM さん実習	1
7月	伊那養護学校高等部 3 年生 KR さん実習 延べ 10 日間	1
11 月	伊那養護学校高等部 3 年生 KR さん実習 延べ 5 日間	1

2. ボランティア受け入れ状況

期日	団体名・内容等	延べ人数
11 月	NPO 法人地域支えあいネット 下嶋氏(ポッチャ講師)	1
1 月	田口氏(大道芸講師)	1
2 月	サンスポート駒ヶ根(出張スケジュール)	1
2 月	田口氏(大道芸講師)	1
3 月	田口氏(大道芸講師)	1

3. 職員研修参加状況

期日	研修名	延べ人数
7 月	職員代表者説明会、二・三等級研修、採用時諸規定研修	6
9 月	二・三等級研修	2
10 月	上伊那圏域地域自立支援協議会主催「権利擁護部会」	1
11 月	二・三等級研修、一等級研修、強度行動障がい者支援者研修	9
1 月	理念研修、感染症対策研修、二・三等級研修	18
2 月	虐待防止研修、一等級研修	10
3 月	事例検討会	3

令和 2 年度事業報告書

1. 種別・名称： 特定相談支援事業・障害児相談支援事業 松川障がい者相談支援センター
 - (1) 事業区分及び定員・契約者数（現員数） 特定 153 名 児童 23 名
 - (2) 実績：サービス等利用計画 特定 110 件 児童 29 件
モニタリング 特定 208 件 児童 20 件
自殺対策・精神保健福祉相談窓口事業 相談件数 48 件（内専用ダイヤル 8 件）

2. 概要等

(1) 運営の概況

兼務の相談支援専門員を 2 名配置することができた。しかし、9 月の専従職員の異動に伴う大幅な担当変更と契約者数の多さから、年度中は新規受け入れができない状況である。来年度は相談支援専門員の配置を計画的に行い、契約者数を増やしていく。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、利用事業所の 1 本化や事業所の見学・実習受け入れの中止によるサービス調整の業務量が増え、対応に追われる 1 年であった。また支援会議が開催できず、電話やメール等で情報共有を行った。しかし、対面での相談を希望される利用者や保護者も多く、感染対策をしながら対応の検討が必要である。

(2) 5 か年計画の評価

① 困難ケースへの対応強化

自立支援協議会にて困難ケースの事例を提供し検討を行った。また、支援会議には基幹センターや主治医にも介入してもらい、本人への効果的な支援を検討できた。また、相談支援専門員の役割や連携の必要性を再認識する機会となった。

② 地域の実情に合わせた相談支援専門員の体制作り

相談支援専門員の不足が継続しているが、今年度は兼務相談支援専門員の配置と来年度の配置に向けて、相談支援従事者研修を 1 名受講した。今後は上伊那圏域への配置を検討していきたい。

③ 心の健康相談窓口の体制作り

コロナウイルスの影響で相談件数が増加すると思われたが、横ばいであった。必要な方へ周知できるように関係機関と連携をとっていきたい。また、対応職員を増やすために研修を予定していたが、中止となったため来年度の受講を目指す。

3. 職員配置状況

(R3年3月31日現在)

職種\雇用形態等	正規職員	パート	計	国家資格等
施設長（管理者）	0.5		0.5	社会福祉士、精神保健福祉士
相談支援専門員	1.3		1.3	社会福祉士
合 計	1.8	0	1.8	

4. 安全防災対策

(1) 防災訓練 9月（地震）、3月（火災） あすなろと合同で実施

5. 公益的取り組みの状況

まつかわこども福祉教室あいむへの参加

6. 主な施設整備等

なし

7. 添付資料

(1) 職員研修状況

(2) 苦情等の状況 なし

視察、実習の受け入れ なし

職員研修、会議等

期 日	研修名	参加者
隔月（10月より）	人材育成部会、専門員の会（自立支援協議会）	藤澤、宮島
9月～3月	元気センター（仮称）検討委員会他	藤澤
9月24日	要保護児童連絡協議会（飯島町教育委員会）	宮島
11月24日	事例検討会（法人）	宮島
12月8日	障がい者虐待防止研修、感染症研修（法人）	全職員
1月18日	就労支援	
2月4日	非行、犯罪行為に至った障害者への支援 ～福祉と医療の連携～（のぞみの園）	藤澤
2月17日	拠点整備実践報告会（自立支援協議会）	
3月19日	事例検討会（法人）	藤澤、宮島

令和 2 年度事業報告書

1. 種別・名称： 地域活動支援センターⅢ型 飯島町障がい者地域活動支援センターやすらぎ
 - (1) 事業区分及び定員・契約者数（現員数） 定員 10 名 契約者数 28 名
 - (2) 実績：1 日当たりの平均利用者数 9.3 名

2. 概要等

(1) 運営の概況

コロナウイルス感染防止のため、行政指導のもと 4、5 月は館内での飲食を中止し利用時間の制限を行った。6 月以降は検温や消毒、マスクの着用等の対策をして受け入れている。人気のあった調理活動や音楽療法、お楽しみ外出等が中止となったが、グループワークを行い、利用者の意見を取り入れた運動やカラオケ、テイクアウトランチ会等のプログラムにおいて感染対策をしながら行った。そのため、利用者数の減少はなく、満足度調査においても不満につながることはなかった。しかし、感染症が心配で長期間やすらぎを利用していない方もいたため、電話や手紙を添えたプログラム表を送り孤立感につながらないように心掛けた。

やすらぎは毎年 200 名近くのボランティアが活動等に関わってくださっているが、今年度は受け入れを自粛した。今後は交流方法を検討し、地域の方やコスモス園登録団体との交流を継続していきたい。

(2) 5 か年計画の評価

① 行政機関と連携した地域ニーズへの働きかけの強化

保健師や引きこもりサポーター等と連携をしての支援を継続している。今年度は 2 名の方が新規登録となった。

② イベントの開催や町内の行事等を活用した地域福祉の啓発活動

今年度は行事やイベントが中止となり、啓発につながる活動ができなかった。HP や ICT を活用しての情報発信や地域との交流を検討したい。

③ 利用者の希望する生活に向けた支援の強化

今年度は就職 1 名、就労継続支援 B 型へ 1 名が移行された。月 1 回、相談支援専門員による相談日を活用し、個別への支援を充実できるよう関わっている。

利用される方の障がいが多様となり、職員のスキルが求められる。視察や事例検討、外部研修を予定していたが、多くが中止となった。来年度は事業所内での学習の機会を増やし、統一した支援が行えるように取り組んでいく。

3. 職員配置状況

(R3年3月31日現在)

職種\雇用形態等	正規職員	パート	計	国家資格等
施設長（管理者）	0.2		0.2	社会福祉士、精神保健福祉士
指導員	1	1	2	准看護師
合 計	1.2	1	2.2	

4. 安全防災対策

(1) 防災訓練 10月（火災）、2月（地震、火災）

5. 公益的取り組みの状況

まつかわこども福祉教室あいむへの参加

6. 主な施設整備等

カラオケ機材（赤い羽根共同募金）

7. 添付資料

(1) 実習、ボランティア等の受け入れ、職員研修状況

(2) 苦情等の状況 なし

ボランティア受け入れ状況

期日	団体名	内容	人数
毎月	個人：木本氏、古田氏	運動	1名
毎月	個人：古田氏 保健師	音楽療法	2名
6～7月 11～3月	個人：小林氏 週1回	製品作り	1名
12月	個人：向山さん	似顔絵	1名
2月	サンスポート	運動	1名
3月	コスモス園登録団体 ハウオリフラブアケニケニ	フラダンス発表、交流	19名

視察・見学受け入れ状況

期 日	団体名	内容	人数
9月24日	Mさん、ご家族、保健師	施設見学	3名
10月13、14日	飯島中学校2年生	職場体験	2名
1月20日	F氏、Y氏、福祉課	施設見学	3名

職員研修

期 日	研修名	参加者
11月17日	ひきこもりサポーター研修（飯島町）	下澤
12月8日	障がい者虐待防止研修、感染症研修（法人）	全職員
3月19日	事例検討会（法人）	下澤

令和 2 年度事業報告書

1. 種別・名称：精神障害者地域活動支援センター 親愛の里そよかぜ

(1) 事業区分及び定員・契約(登録)者数

精神障害者地域活動支援事業Ⅰ型：定員 20 名 契約者数 65 名

(2) 実績：1 日当たりの平均利用者数

・登録、利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
登録者数	69	68	69	67	65	64	64	64	64	65	65	65
平均利用人数	8.9	7.6	9.9	8.9	5.6	7.1	8.6	8.5	7.1	7.9	8.6	7.9

・年齢（延べ人数）

(令和 3 年 3 月 31 日現在)

	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	計
男	1	5	14	10	6	36
女	1	8	8	8	4	29
計	2	13	22	18	10	65

・居住区

(令和 3 年 3 月 31 日現在)

	中村区	中川区	千種区	昭和区	西区	南区	北区	中区	緑区	港区
人数	38	9	1	1	1	1	1	1	2	5
	東区	清須市	春日井市	一宮市	大治町	合計				
人数	1	1	1	1	1	65				

2. 概要等

(1) 運営の概況

- ・令和 2 年度は、コロナ感染予防対策として活動の縮小が求められる 1 年となった。

開所時には職員、来所者ともに検温や手指消毒の徹底、室内の換気、共有で接触するものの消毒、密にならない対策等を実施。その他、行政の要請に基づき開所時間の短縮等を行った。また、飲食の伴うプログラムを中止し、散歩やストレッチ、zoom を活用した手話教室など感染リスクに配慮した内容へ変更をした。自粛期間中、孤立や不安の増大にならないよう来所ができない利用者に向けたニュースレター等での声掛けや電話対応などを実施し、そよかぜとの繋がりを実感してもらえるような取り組みを行った。

- ・コロナ禍における地域啓発の方法を検討工夫し、障害者基幹相談支援センターとも協力をしながら障がいの理解啓発への取り組みを行った。今年度はコロナ禍でうつや不安を示す方の増加があるという社会背景から、外の掲示板に地域の方への発信として、心の健康や不安な時の相談窓口について掲示をした。

- ・利用する方の障がいの種類が幅広くなっている。限られた職員で対応していくためにも地活の目的を改めて確認し取り組み内容を検討すると同時に障がい特性や社会生活力向上のための支援等学習する機会を設けスキル向上を目指す必要がある。

(2) 5か年計画の評価（進捗状況も含め）

公開プログラムや、学習会の開催を継続実施することで、継続した地域とのつながりを持つことができた。地域福祉の拠点として、地活の役割を再確認しながら、障がいの啓発や当事者の活躍する機会づくりを検討していく必要がある。コロナ禍もありボランティアの受け入れには新しい形を検討する必要がある。

3. 職員配置状況

(令和3年3月31日現在)

職種\雇用形態等	正規職員	パート	計	国家資格等
施設長（管理者）	1(1)		1 (1)	精神保健福祉士・社会福祉士
生活支援員等	2	1	3	精神保健福祉士（2）
合 計	3	1	4	

職員数の（ ）内は兼務、国家資格等の（ ）は資格所持者数

4. 安全防災対策

(1) 防災訓練

- ・9/30 避難訓練&コロナ禍の避難について考えよう

食堂で火災が発生したと想定し避難訓練を実施。駐車場に避難後、水消火器の体験を行った。その後談話室にて、映像や資料を用いながらコロナが流行している中で避難する際に特に注意すべき点は何か、必要となる用具は何かを取り上げ、災害への備えに対する意識向上を図った。

- ・3/6 避難訓練&防災クイズにチャレンジ！

地震が発生した際の自身の身の守り方を「シェイクアウト訓練」の動画を事前に視聴し実践。その後食堂で火災が発生したと想定し避難訓練を行い、水消火器の使用体験を行った。その後談話室で防災クイズを実施し、防災への知識の向上を図った。

5. 公益的取り組みの状況

- ・プログラムを地域の方にも開放しており、書道教室には地域の方々が参加している。
- ・12/23に駐車場のスペースを活用し、地域向けに果物販売を実施。地域の方には数日前から外にチラシを掲示し、広報。当日は利用者も会場設営や販売作業を担当した。購入された方には果物とあわせてニュース親愛を渡した。購入された方からは毎年購入していたから購入できてうれしい、外のチラシを見て購入しに来たとの声があった。

6. 主な施設整備等

- (1) 改修等 : 記載事項 特になし
- (2) 固定資産物品 : 記載事項 特になし

7. 添付資料

- (1) 実習、ボランティア等の受け入れ、職員研修状況 … 別紙
- (2) 苦情等の状況 なし

実習・ボランティア等の受入状況

日 程 および 日 時	氏 名 もしくは 人 数	内 容
7/7、8	同朋大学（1名）	精神保健福祉士現場実習
7/9、10	東京福祉大学（1名）	精神保健福祉士現場実習
10/14	同朋大学学生2年生2名	精神保健福祉士現場一日見学実習
11/20	愛知淑徳大学（1名）	精神保健福祉士現場実習
12/4	愛知淑徳大学（1名）	精神保健福祉士現場実習
1/5	北原さん	採用実習

職員研修参加状況

期 日	研修名	主催	参加者
4/28、30、5/1、7、 8、12、15、19、20、 21、27、28、6/18、 25	障害特性に関する学習会	親愛の里	太田
6/24	新人職員研修	親愛の里	太田、遠藤
7/22、7/29	アセスメントに関する学習会	親愛の里	太田
7/15	新人職員研修	新人職員研修	太田、遠藤
8/11、8/12	アセスメントに関する学習会	親愛の里	太田
8/19、8/20	防火管理講習	名古屋市消防局	太田
9/16、9/17	アセスメントに関する学習会	親愛の里	太田
10/22、23、11/2 4、 12/14、15	相談支援従事者初任研修	愛知県社協	遠藤
12/2	地活Ⅰ型交流会	親愛の里	中野、太田
12/16	親愛の里学習会（依存症の現状について）	親愛の里	中野、太田
2/5	事例検討会（愛着障がいについて）	親愛の里	太田
3/24	親愛の里学習会（依存症への取り組み）	親愛の里	太田、遠藤

令和 2 年度事業報告書

1. 種別・名称： 中村区障害者基幹相談支援センター

2. 概要等

(1) 運営の概況

- 1) 障がいの多様化：相談者の障がい種別で見ると精神障がい者の方の比率が高い（相談者全体に占める精神障害の割合の推移：R1 年度 55%→R2 年度 68%）。生活歴などの背景から関係づくりに工夫が必要となる等支援が困難な事例が増えている。
- 2) 他分野との連携強化の仕組みづくり：「名古屋市における精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム」の取組みを活用し、いきいき支援センター、仕事・くらし自立サポートセンター、行政（保健センター、市健康増進課）と共に、8050 世帯のケースを通して課題の共有、双方の業務の理解を深め連携強化に取り組んだ。
- 3) 子育てシステムの構築：現状を知るために緑区保健センター職員（元児相職員）から講師を招き、児童を取りまく支援体制や実態について研修を実施した。

4) 課題

- ①身体・知的・難病についての知識やスキルアップ
- ②様々な世代に対応できるような地域の具体的なシステム構築

今年度実施した他分野との連携の仕組みの枠組みの中に、ワーキングチーム（高齢分野との連携、地域啓発地域づくり、子どもの支援の 3 つ）の発足を進めている。

(2) 5 か年計画の評価（進捗状況も含め）

目標：地域福祉の取組みを通して、人や制度などをコーディネートする役割を担い、新たなサービス創設や仕組みづくりを行うマネジメント機能を持つセンターを目指す

《実施状況》

- ・自立支援協議会の取組みや日々の相談から、地域の相談支援事業所や福祉サービス事業所の特徴や状況を把握し、相談者とのマッチングを考えながら必要な支援に繋がるよう支援している。また、困難ケースについての相談は、当センターだけではなく、行政やその他必要と考えられる機関とも連携を図りながら地域で支えられるよう工夫し役割分担をしながら支援を行っている。
- ・新型コロナウイルスの影響で、イベントや各機関と繋がる機会が持てないことが増えたが、関係機関と協力しの普及啓発の取組みを行った。特に豊臣学区においては、民生委員向けに CSW を交えた話し合いをしたり、地域支えあい事業（住民による助け合いを主とした活動）に参加する地域住民に向けて、ピアサポーターとの交流の場を設けるなど力を入れた取組みができた。保健センターや社会福祉協議会と共に、豊臣学区をモデルとした地域づくりの推進を R3 年度もより具体的に進めていけるよう検討している。

3. 利用実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ相談件数	278	377	431	386	340	375	413	401	350	406	335	417	4633
認定調査数	27	30	43	33	30	41	32	36	35	38	38	43	432

4. 職員配置状況

(R3年3月31日現在)

職種\雇用形態等	正規職員	パート	計	国家資格等
センター長	1		1	精神保健福祉士・社会福祉士
副センター長	1(1)		1	介護福祉士・保育士
相談支援専門員	5(3)	1	6(3)	社会福祉士(2) 精神保健福祉士(3)
合 計	7	1	8	

職員数の()はコンソーシアム(社会福祉法人名古屋身体障害者福祉連合会)の人数再掲、国家資格等の()は資格所持者数

5. 安全防災対策

(1) 9/30 避難訓練

地域活動支援センターそよかぜと合同で食堂で火災が発生したと想定し避難訓練実施。駐車場に避難後、水消火器の体験を行った。

(2) 3/6 避難訓練

1回目と同様、地域活動支援センターと合同で避難訓練実施。二回目は利用者が多く参加する土曜日に行った。利用者へは地震が発生した際の自身の身の守り方を「シェイクアウト訓練」の動画を事前に視聴し実践。その後食堂で火災が発生したと想定し避難訓練を行い、水消火器の使用体験を行った。

6. 公益的取り組みの状況

- ・中村区精神障害者家族会「よつ葉会」(毎月第一土曜日開催)に出席。必要時に制度等の情報提供を行った。中村保健センター相談員より見学の希望があり家族会との調整を行った。
- ・2で記載したように普及啓発の取り組みをおこなった。
- ・新型コロナウイルスの影響で、「そよフェス」の開催等地域に開放したイベントは開催できなかったが、コロナ禍で孤独や不安を感じている方も多いと思われる中、地域の方向けに外の掲示板に「新型コロナウイルスによる心の相談窓口」の掲示を行った。

7. 添付資料

- (1) 利用実績…別紙 1
- (2) 職員研修状況…別紙 2
- (3) 苦情等の状況 なし

(当月分・相談支援を利用している障害者等の人数)

	実人数	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
障害者	492	103	0	102	256	5	3	13
障害児	19	2	1	12	3	1	0	0
計	511	105	1	114	259	6	3	13
内、新規	182	30	1	34	99	3	2	10

難病患者 (その他の再掲)
8
0
8
6

(年度累計・相談支援を利用している障害者等の人数)

	実人数	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
障害者	492	103	0	102	256	5	3	13
障害児	19	2	1	12	3	1	0	0
計	511	105	1	114	259	6	3	13

難病患者 (その他の再掲)
8
0
8

支援内容・方法

	福祉サービス の利用等に関する支援	障害や症状の 理解に関する支援	健康・医療に 関する支援	不安の解消・ 情緒安定に 関する支援	保育・教育に 関する支援	家族関係・人 間関係に 関する支援	家計・経済に 関する支援	生活技術に 関する支援	就労に 関する 支援	社会参加・余 暇活動に 関する 支援	権利擁護に 関 する支援	その他	計	差別に 関する相談 (権利擁 護の再 掲)	虐待相談 (権利擁 護の再 掲)
訪問	180	11	6	5	0	8	2	46	4	0	7	27	296	0	3
同行	30	1	6	1	0	0	1	9	2	0	2	14	66	0	0
個別支援会議	27	2	0	0	0	3	1	2	0	0	3	5	7	50	4
関係機関調整	29	2	2	0	0	3	1	2	2	0	0	1	42	0	0
その他	20	4	2	1	0	6	0	1	0	0	1	5	40	0	0
小計	286	20	16	7	0	20	5	60	8	3	15	54	494	0	7
来所	156	8	10	37	0	47	22	53	20	7	7	17	384	0	2
来電話	1433	118	208	948	1	277	86	392	69	11	34	178	3755	4	18
所電メール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	1589	126	218	985	1	324	108	445	89	18	41	195	4139	4	20
計	1875	146	234	992	1	344	113	505	97	21	56	249	4633	4	27
ピアカウンセリング (再掲)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

地域自立支援協議会	総会 (全休会)	部会	研修会	その他	計
	0	6	0	9	15

事業運営費外

障害支援区分認定調査	サービス等利用計画 (案)	サービス等利用計画	継続サービス利用支援	入居成立
432 件	7 件	10 件	30 件	0 件

職員研修参加状況

期 日	研修名	主催	参加者
9/28 -10/15	令和2年度社会福祉法人 「マネジメント講座」	全国社会福祉法 人経営者協議会 事務局	関戸C長
10/21	四区合同相談支援事業所学習会	西ブロック協議 会	河村、貝出
11/6	令和2年度精神障害にも対応した地 域包括ケアシステム構築支援事業 「アドバイザースキルアップ研修」	厚生労働省社 会・援護局障害保 健福祉部 精神・ 障害保健課	関戸C長
11/26	認定調査員研修	愛知県	貝出
12/16	親愛の里学習会 (依存症の現状について)	親愛の里	関戸C長、河村、貝出
1/12	相談支援専門員現任研修(集合講義)	愛知県	関戸C長
2/6.7	名古屋市アルコール依存症支援者研 修	名古屋市	関戸C長
2/19	名古屋市相談支援従事者研修(愛着 障害のある方の支援について)	名古屋市	関戸C長、河村、貝出、 武藤
3/5	相談支援従事者中堅クラス研修(振 り返し参加型事例検討)	名古屋市	河村、貝出
3/24	親愛の里学習会 (依存症の取り組みについて)	親愛の里	関戸C長、河村、貝出、 武藤、加藤

令和 2 年度事業報告書

1. 種別・名称：地域活動支援センター ハートランド森

(1) 事業区分及び定員・契約者数（現員数）

地域活動支援事業Ⅰ型：定員 20 名・契約者数 49 名

(2) 実績：1 日当たりの平均利用者数

・登録、利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
平均利用人数	9.0	10.5	12.2	10.4	9.5	8.0	10.4	10.3	11.3	10.1	11.6	12.0

・年齢（延べ人数）

	20～ 24	25～ 29	30～ 34	35～ 39	40～ 44	45～ 49	50～54	55～	計
男	0	1	3	3	5	4	4	12	32
女	0	0	1	2	1	4	2	7	17
計	0	1	4	5	6	8	6	19	49

・居住区

	熱田区	中村区	南区	中川区	港区	天白区	合計
人数	34	1	7	1	5	1	49

2. 概要等

(1) 運営の概況

- ・コロナウイルス感染症の影響で、昨年度より 1 日当たりの平均利用者数は 3 名ほど減っている。以前は来所していたが、今年度は 1 度も来所できなかった人が数名おり、来所回数を大幅に減らした利用者もいる。コロナによる精神的な不調、感染を警戒して来所できなかった方が多かったとみられる。
- ・昨年度より高齢化は進んでおり、65 歳以上が 4⇒6 名に増えた。40 代以下は就労系の事業所と併用の方が多いこともあり来所日数は少なく、実際に来所しているのは高齢の方が多い。健康面に不安がある方も多く、朝の健康チェックの際に職員が声をかけるなど、健康管理に気を配っている。
- ・プログラムは人の集まるイベントやバザー、体育館を使用するスポーツ、調理、外出などのプログラムが行えなかったため単調なものになってしまっていた。プログラム人気投票を行うとともに毎月の話し合いでも利用者からアイデアを募集し、声を出さなくても楽しめる音楽鑑賞会や個々で作品を作る折り紙、室内で静かにできるヨガ、心を整えるマインドフルネスなどを行った。これらのプログラムは好評のため、引き続き利用者

の意見を取り入れながらプログラム作成を行っていく。

(2) 5か年計画の評価（進捗状況も含め）

- ・地域とのつながりを大切にし、家族や関係機関など多くの人たちが集い、活動する場という役割が計画されていたが、コロナウイルス感染症の影響で大きな活動はできなかった。家族会支援も2回のみであった。
- ・啓発活動においては、緊急事態宣言が出ているときなどは中止をしたため回数は大幅に減ってしまったが、販売やサロンなど感染対策を行い開催することができた。
- ・名古屋市内の地域活動支援センターⅠ型の職員交流会を3地活で協力し、ZOOMを使用するなど感染対策を講じながら実施することができた。

3. 職員配置状況

(R3年3月31日現在)

職種\雇用形態等	正規職員	パート	計	国家資格等
生活支援員等	2		2	社会福祉士、精神保健福祉士
合 計	2		2	

4. 安全防災対策

(1) 防災訓練 10月：災害伝言ダイヤル体験利用

3月：災害についての動画鑑賞 避難場所の確認

5. 公益的取り組みの状況

- ・火曜市（販売）7/28、10/13、10/27、11/10、11/24、12/1、1/12
- ・かよういちサロン 1/12（フェイスシールドを作ろう）、10/13（ストレッチ&ゲーム）、10/27（手話体験）、11/10（スクラッチアート）、11/24（パステル絵画）
- ・あったオイオン千年店（販売）7/7、10/6
- ・あったオイオンモール熱田店（販売）12/3
- ・あった〇熱田区役所（販売）12/25

6. 主な施設整備等

なし

7. 工賃実績

なし

8. 添付資料

(1) 実習、ボランティア等の受け入れ、職員研修状況 … 別紙1

(2) 苦情等の状況 … 別紙2

実習・ボランティア等の受入状況

日 程 および 日 時	氏 名 もしくは 人 数	内 容
7/9 (木) ~13 (月)	同朋大学 実習 1 名	プログラム、利用者対応
7/13 (月)、14 (火)	東京福祉専門学校 実習 1 名	プログラム、利用者対応
10/14 (水)	同朋大学 実習 2 名	プログラム、利用者対応
10/6、13、20 (火)	愛知県立大学 実習 1 名	プログラム、利用者対応
10/27 (火) ~11/12 (木)	愛知県立大学 実習 1 名	プログラム、利用者対応
11/24 (火)	愛知淑徳大学 実習 1 名	プログラム、利用者対応
11/30 (月) ~12/3 (木) 12/7、8、11、14、15	愛知淑徳大学 実習 1 名	プログラム、利用者対応

職員研修参加状況

期 日	研修名	主催	参加者
12/16 (水)	親愛の里学習会 『依存症の現状について』	親愛の里 名古屋支援事業所	内野
3/24 (水)	親愛の里学習会 『依存症の現状と支援研修』	親愛の里 名古屋支援事業所	内野、川崎

令和2年度苦情受付一覧表

別紙2

200年度

No.	期 日	苦情申出者氏名	苦情の種類	苦情のレベル	原因	内 容	対 応	第三者受 取立金
1	12月1日	MHさん	1	1	2	内閣総理大臣をA党のBさんかC党のDさんかどうかとMさんが職員に尋ねた。職員がCでは日本がつぶれてしまおう。」と言ったことに対してMさんは悲しく感じた。センター内では政治の話はしていけないと契約書にあるがどうなっているかということだった。	職員は自分自身の発言が過激であったこと、相手の心情を 考えていなかったことを反省し、Mさんへ謝罪した。その 際、Mさんからはハートランド森がどのような場所である かや、利用者の気持ちを考えて発言してほしいと言われ た。	無

※苦情の種類

1 サービス内容(職員の接遇) ... 1件

2 サービス内容(質・量) ... 0件

3 事故、被害、損害 ... 0件

4 事業所運営 ... 0件

5 契約内容 ... 0件

6 建物の構造 ... 0件

7 その他 ... 0件

※苦情の発生原因

1 説明・情報不足 ... 0件

2 職員の態度・言動 ... 1件

3 サービス内容 ... 0件

4 その他 ... 0件

1 要望(本人の意向、意見、主張など) ... 1件

2 請求(法的責任に基づく権利の主張など) ... 0件

3 責任追及レベル(契約不履行に伴う責任追及など) ... 0件

4 その他 ... 0件

実績総数	1件
苦情受付	1件

令和 2 年度事業報告書

1. 種別・名称： 熱田区障害者基幹相談支援センター

2. 概要等

(1) 運営の概況

- ・コロナウィルス感染症の影響で自立支援連絡協議会の活動も動かない 1 年であった。運営会議、あった会議以外の各部会はほぼ開催が出来ず、年度末の 3 月に入り各部会が動き始めるにとどまった。協議会の開催が難しくなったため 10 月からは今まで年 2 回発行していた「地域だより」を毎月発行に変更した。運営会議の報告や熱田区内の情報、事業所の紹介等を行っている。
- ・相談件数は年間で約 1,100 件増加。コロナ禍の影響もあるのか電話での相談が増加した。また、認定調査に関しては約 130 件減少した。直接の訪問が出来ないこともあった。
- ・地域啓発活動もコロナの影響で大きな行事等はすべて中止になった。火曜市サロン、あった販売が数回行われたくらいであった。南養護学校の進路説明会、区民祭り、熱田区防災訓練、エンジョイフェア、こころの講座等人が多く集まる行事はすべて中止となった。

(2) 5 か年計画の評価（進捗状況も含め）

- ・新人職員には先輩職員が付き、面談、認定調査等を行った。また、スキルアップや抱え込み、バーンアウトしないように毎週 1 回支援経過、社会資源の情報や制度の知識の共有を図った。
- ・コロナウィルスの影響でイベント等が中止になり、障がい福祉の理解・啓発活動等が、ほとんど行えなかった。今後は、コロナ禍においてもできる啓発等について検討が必要。
- ・家族会（しろとり会）の開催も高齢の家族が多く、年 4 回のうち 11/14 の 1 回のみ開催。

3. 利用実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ相談件数	299	288	377	301	331	335	290	203	212	252	201	290	3,379
認定調査数	14	9	5	16	27	18	10	16	12	12	23	16	178

4. 職員配置状況

(R3.3.31 日現在)

職種\雇用形態等	正規職員	パート	計	国家資格等
センター長	1		1	社会福祉士 介護福祉士 精神保健福祉士
副センター長	1		1	精神保健福祉士
相談支援専門員	4		4	社会福祉士 2 介護福祉士 1
合 計	6		6	常勤換算 5.5

* 親愛の里職員は、この内 2 名のみ。

5. 安全防災対策

(1) 防災訓練

- ・ 令和 2 年 9 月に名身連本部会館全体と合同で地震を想定した防災訓練を開催。
- ・ 令和 3 年 3 月に火災を想定し消火訓練（消火器を使った消火）を行った。

6. 公益的取り組みの状況

・ 火曜市サロン

10/13（ストレッチ&ゲーム） 10/27（手話体験） 11/10（スクラッチアート）
11/24（パステル絵画） 1/12（フェイスシールドを作ろう）

- ・ あった○イオン千年店（販売）⇒第 1・3 火曜日
- ・ あった○イオンモール熱田店（販売）12/3
- ・ あった○熱田区役所（販売）⇒第 2・4 金曜日

7. 主な施設整備等

なし

8. 添付資料

- (1) 利用実績…別紙 1
- (2) 実習、ボランティア等の受け入れ、職員研修状況…別紙 2
- (3) 苦情等の状況 なし

(第3号様式)

事業内容報告書

熱田区障害者基幹相談支援センター

(計)

別紙1

令和2年4月分

(当月分・相談支援を利用している障害者等の人数)

	実人数	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
障害者	327	68	0	64	144	7	0	13
障害児	12	3	0	4	1	0	0	4
計	339	71	0	68	145	7	0	17
内、新規	96	14	0	10	40	0	0	8

難病患者 (その他の再掲)	1
	0
	0
	1
	0

(年度累計・相談支援を利用している障害者等の人数)

	実人数	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
障害者	327	68	0	64	144	7	0	13
障害児	12	3	0	4	1	0	0	4
計	339	71	0	68	145	7	0	17

難病患者 (その他の再掲)	1
	0
	0
	1
	0

支援内容・方法

	福祉サービスの利用等に関する支援	障害や症状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援	家計・経済に関する支援	生活技術に関する支援	就労に関する支援	社会参加・余暇活動に関する支援	権利擁護に関する支援	その他	計	差別に関する相談 (権利擁護の再掲)	虐待相談 (権利擁護の再掲)
訪問	190	12	30	1	0	5	14	29	3	2	0	26	312	0	0
同行	47	2	14	0	0	0	4	3	1	0	0	9	80	0	0
個別支援会議	22	8	5	0	1	3	2	0	0	0	0	1	42	0	0
関係機関調整	17	4	4	0	0	4	1	0	2	0	0	3	35	0	0
その他	3	1	1	1	1	0	1	1	0	0	0	0	12	0	0
小計	279	27	54	2	2	12	22	33	6	2	0	42	481	0	0
来所	194	69	53	49	0	48	173	68	43	13	28	20	758	0	0
来電話	966	187	255	197	13	95	122	62	94	18	17	##	2147	0	3
電子メール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	1160	256	308	246	13	143	295	130	137	31	45	##	2905	0	3
計	1439	283	362	248	15	155	317	163	143	33	45	##	3386	0	3
ピアカウンセリング (再掲)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

地域自立支援協議会	総会 (金体会)	部会	研修会	その他	計
	0	7	1	10	18

事業運営費外

障害支援区分認定調査	サービス等利用計画 (案)	サービス等利用計画	継続サービス利用支援	入居成立
178 件	33 件	31 件	126 件	0 件

実習・ボランティア等の受入状況

日 程 および 日 時	氏 名 もしくは 人 数	内 容
7/9 (木) ~13 (月)	同朋大学 実習 1 名	同行
7/13 (月)、14 (火)	東京福祉専門学校 実習 1 名	同行
10/14 (水)	同朋大学 実習 2 名	同行
10/6、13、20 (火)	愛知県立大学 実習 1 名	同行
10/27 (火) ~11/12 (木)	愛知県立大学 実習 1 名	同行
11/30 (月) ~12/3 (木) 12/7、8、11、14、15	淑徳大学 実習 1 名	同行

職員研修参加状況

	研修名	主催	参加者
7/15 (水)	名古屋市障害者相談支援従事者研修初任者クラス	名古屋市健康福祉局	赤井
10/21 (水)	四区合同相談支援事業所学習会	愛知共同住宅協会	赤井
10/26 (月) ~ 27 (火)	令和 2 年度愛知県相談支援従事者初任者研修	愛知県社会福祉協議会	赤井
11/11 (水)	地域共生社会の実現に向けた包括的な相談支援構築のための研修会	名古屋市社会福祉協議会	赤井
11/25 (水) ~ 26 (木)	令和 2 年度愛知県相談支援従事者初任者研修	愛知県社会福祉協議会	赤井
11/26 (木)	令和 2 年度障害支援区分認定調査員研修	愛知県福祉局	赤井
12/16 (水)	親愛の里学習会 『依存症の現状について』	親愛の里 名古屋支援事業所	小野原、 赤井
1/28 (木) ~ 29 (金)	令和 2 年度愛知県相談支援従事者初任者研修	愛知県社会福祉協議会	赤井
2/8 (月)	相談支援職の記録の書き方		赤井
2/19 (金)	愛着障がいの研修		小野原
3/9 (火)	令和 2 年度愛知県相談支援従事者初任者研修	愛知県社会福祉協議会	赤井
3/24 (水)	親愛の里学習会 『依存症の現状と支援研修』	親愛の里 名古屋支援事業所	小野原、 赤井

令和 2 年度事業報告書

1. 種別・名称：多機能型事業所・ジョブサポートフォルテ

(1) 事業区分及び定員・契約者数：就労移行支援 定員 8 名・契約者 10 名

就労継続支援 B 型 定員 32 名・契約者 50 名

就労定着支援 定員なし・契約者 12 名

(2) 実績

事業名	就労継続B				定員		32						
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数	21	16	22	22	20	21	22	20	20	20	20	23	247
述べ利用者数	619	473	640	630	582	620	685	608	599	552	513	633	7154
利用率(%)	92.1	92.4	90.9	89.5	90.9	92.3	97.3	95.0	93.6	86.3	80.2	86.0	90.5
3ヶ月平均(%)				90.9	90.4	90.9	93.5	94.9	95.3	91.6	86.7	84.1	90.9

事業名	就労移行				定員		8						
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数	21	16	22	22	20	21	22	20	20	20	20	23	247
述べ利用者数	130	149	190	200	172	182	178	167	177	168	177	201	2091
利用率(%)	77.4	116.4	108.0	113.6	107.5	108.3	101.1	104.4	110.6	105.0	110.6	109.2	106.0
3ヶ月平均(%)				112.7	109.7	109.8	105.7	104.6	105.4	106.7	108.8	108.3	107.9

事業名	就労定着				定員		なし						
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用者数	10	9	10	10	11	11	11	11	11	11	12	12	129

2. 概要等

(1) 運営の概況

- ・重点目標においては、各事業で数値目標を設けて事業運営を行った。
- ・今年度第 3 四半期からは、祝日及び指定した土曜日開所を定期化し収支の改善に取り組んだが、新型コロナウイルスの影響等もあり改善には至らなかった。
- ・今年度は、ぱれっとハウスと同じ組織体制となったことで、利用者の支援を職員が連携して行うことができた。今後もフォルテの職員がぱれっとハウス職員を兼務するかたちで協力、連携していく。なお、このことにより、課題である人件費の削減にもつなげることができた。
- ・新型コロナウイルス感染予防対策については、名古屋市及び法人通知を基本に継続して実施した。

【就労継続支援 B 型事業】

- ・新規利用者の確保については、関係機関と連携した就労支援と工賃向上を中心に取り組んだが、就労継続支援 B 型事業から就労移行支援への移行もあり、十分な結果には至らなかった。

- ・最近の利用者確保の傾向として、昼食の無料提供や定額工賃（1日1,000円等）といった事業所も増えているなかで、サービス内容やフォルテとしての利用者像等についても再検討し、食事提供体制加算（昼食提供）の取得を来年度当初に予定している。
- ・平均工賃は、新型コロナウイルスの影響もあって、上半期は大幅な落ち込みがあったが、下半期の作業科目の見直しや受注が堅調であったこともあり、前年度と同じ金額となった。

【就労移行支援】

- ・3名が一般企業への就職し就労継続A型へも4名移行した。
- ・就労継続B型から就労移行支援に移行することで、新規利用者の確保をはかった。

【就労定着支援】

- ・就職者や企業への支援を定期的に行っている。今後は、利用期間の3年を過ぎた後の支援体制が求められる。

(2) 5か年計画の評価

- ・新規利用者の確保が数値目標通りに進まず、収支は改善していない。収益確保のために、具体的な経営改善の計画を作成し取り組んでいる。また職員の退職や異動に伴い、新規職員を採用したが年齢構成上は経験年数の若い職員が多い。充実した個別支援のためにも、職員の育成が急務であり、組織や研修体制を見直すとともにOJT等を通じた育成に取り組む。

3. 職員配置状況

(R3年3月31日現在)

職種\雇用形態等	正規職員	パート	常勤換算	国家資格等
管理者	1(1)		1.0	作業療法士・社会福祉士・ジョブコーチ
サービス管理責任者				
就労支援員	1		1.0	
就労定着支援員	1(1)		0.4	社会福祉士・ジョブコーチ
職業指導員	2(1)		1.6	社会福祉士・精神保健福祉士
目標工賃達成指導員	1		1.0	社会福祉士・精神保健福祉士
生活支援員	3(1)	3(2)	5.0	社会福祉士・精神保健福祉士
合 計	9(4)	3(2)	10.0	

() は兼務職員。

4. 安全防災対策

- (1) 防災訓練…年2回 9月： 地震、火災想定避難訓練・消火訓練

3月： 津波想定避難訓練・非常食試食会

5. 公益的取り組みの状況

(1) 地域の社会的な援助を必要とする方への支援

- ・名古屋市の福祉避難所の指定を検討が進められなかった。来年度に検討する。

(2) 生活困窮者への中間的雇用の場や職場体験の機会の提供

- ・生活困窮者就労訓練事業の名古屋市への認定申請を行う。今年度は受け入れの相談はなかったが、今後も継続する。

(3) 精神障がい者ピアサポーターによる福祉教育と啓発活動

- ・新型コロナウイルスの影響で、研修会自体は延期や中止となった。少ない機会ながら、地域への啓発活動も行い、看護学生等への体験発表を継続できた。

6. 主な施設整備等

(1) 改修等 : 記載事項 特になし

(2) 固定資産物品 : 記載事項 特になし

7. 工賃実績

(1) 令和2年度平均月額工賃：18,107円

8. 実習、ボランティア等の受け入れ、職員研修状況 … 別紙

9. 苦情等の状況

- ・特になし。

実習・ボランティア等の受入状況

日程 および 日時	氏名 もしくは 人数	内 容
7/1～7/22	東京福祉大学 1 名	精神保健福祉士実習
8/4～8/12	日本福祉大学 1 名	精神保健福祉士実習
8/17	中京病院附属看護専門学校 2 名	精神科デイケア実習
10/14	同朋大学 4 名	見学実習
10/27・10/28	名古屋市医師会看護専門学校 8 名	精神科デイケア実習
11/16～11/15	愛知淑徳大学 1 名	精神保健福祉士実習

職員研修参加状況

期 日	研修名	主催	参加者
4/28、30、5/1、7、8、 12、15、19、20、21、 27、28、6/18、25	障がい特性に関する学習会	親愛の里	本橋・浅田
6/24	新人職員研修	親愛の里	本橋・浅田
7/22、7/29	アセスメントに関する学習会	親愛の里	本橋・浅田
7/15	新人職員研修	新人職員研修	本橋・浅田
8/11、8/12	アセスメントに関する学習会	親愛の里	本橋・浅田
8/19、8/20	防火管理講習	名古屋市消防局	本橋
9/16、9/17	アセスメントに関する学習会	親愛の里	本橋・浅田
11/25～12/10	就業支援基礎講座	愛知障害者職業センタ ー	西村
11/30	愛知県精神障がい者福祉協会 医療観察法について	愛知県精神障がい者 福祉協会	久田
12/16	親愛の里学習会（依存症の現状について）	親愛の里	石川・山口・川崎 久田・西村・本橋 浅田
12/17	名古屋市認知行動療法普及研修	名古屋市	本 12 橋
2/13～3/18	職場適応援助者養成研修	特定非営利法人くらし えん・しごとえん	久田
3/23	サービス管理責任者研修責任者更新研修	愛知県	石川
3/24	親愛の里学習会（依存症への取り組み）	親愛の里	石川・山口・川崎 久田・西村・本橋 浅田

令和 2 年度事業報告書

1. 種別・名称：共同生活援助事業・ぱれっとハウス

(住居名：ぱれっとハウス・アウェエテ・コーポ本陣)

(1) 事業区分及び定員・契約者数：定員 14 名・契約者数 13 名

(2) 実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
平均利用人数	12.7	12.9	12.6	11.9	12.1	13.0	12.8	12.8	12.8	12.8	13.0	12.9

2. 概要等

(1) 運営の概況

- ・今年度の組織再編により、ぱれっとハウスは中村地域支援事業所からジョブサポートフォルテと同じ組織体制となった。ぱれっとハウス利用者は、フォルテを利用している方も多く、利用者支援における職員間の連携も取り易くなり支援の向上につながった。
- ・グループホームから一人暮らしへ 2 名の方が移行した。このことに伴い、コーポ本陣（定員 2 名）の廃止と、アウェエテのサテライト型住居（2 ヶ所）を新設した。サテライト型住居のニーズは高く、3 年後の一人暮らしへの移行を目指して、本人だけでなく家族や関係機関とも連携しながら入居を進めた。
- ・一人暮らし移行後の支援も引き続き行いながら新規利用者の受け入れも同時に進め、新規で 2 名の方がぱれっとハウスに入居した。
- ・平成 31 年 3 月のぱれっとハウスの男性利用者の事故について、法人として支援改善検討委員会を組織し、外部委員（有識者）を委嘱しながら関係職員へのヒアリング、状況の把握や事故分析、再発防止策等を検討した。

(2) 5 か年計画の評価（進捗状況も含め）

- ・一人暮らしに複数名の利用者が移行したこと、サテライト型住居の新設したこと等により、安心・安全の確保の点からも自立生活援助事業による支援の必要性があり、令和 3 年度の事業開始を目指して申請の準備を進めた。
- ・男性利用者の事故に伴う再発防止策として、日常的な個別支援の充実だけでなく、新規の受け入れに關しての標準的な仕組み作りが必要であり、来年度の課題として再発防止策と併せて検討する。

3. 職員配置状況

(R3年3月31日現在)

職種\雇用形態等	正規職員	パート	常勤換算数	国家資格等
管理者	1 (1)		0.1	社会福祉士・精神保健福祉士
サービス管理責任者			0.5	社会福祉士・精神保健福祉士
生活支援員	2 (2)		0.7	社会福祉士・精神保健福祉士
ホームスタッフ		5 (2)	3.3	
合 計	3(3)※	5 (2)	4.6	

() は兼務職員。

※ 3(3)となっているが、管理者がサービス管理責任者と生活支援員を兼務しているため実質は2名の正規職員となっている。

4. 安全防災対策

(1) 防災訓練 : 各ホーム未実施。

5. 公益的取り組みの状況

(1) 地域における防災を考える

・防災訓練の実施ができず、地区の防災の現状を確認できていない。また自立支援連絡協議会は新型コロナウイルスにより開催ができず、地域住民との協働作業も特に検討できなかった。今後の公益的事業について見直す必要がある。

6. 主な施設整備等

(1) 改修等 : 記載事項 特になし

(2) 固定資産物品 : 記載事項 特になし

期 日	研修名	主催	参加者
12/16	親愛の里学習会（依存症の現状について）	親愛の里	水野
3/24	親愛の里学習会（依存症への取り組み）	親愛の里	水野

7. 実習、ボランティア等の受け入れ、職員研修状況

8. 苦情等の状況

・特になし。

令和 2 年度事業報告書

1. 種別・名称：精神障害者地域活動支援センター クオーレ

(1) 地域活動支援事業Ⅰ型：定員 20 名 契約者数 31 名

(2) 実績：1 日当たりの平均利用者数（5.9 人）

・登録、利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
登録者数	27	27	27	29	29	29	30	31	31	31	31	31
平均利用人数	4.4	3.6	6.4	7.3	6	5.6	6.3	4.8	6.9	5.9	6.5	7.8

・年齢（延べ人数）

	20～ 24	25～ 29	30～ 34	35～ 39	40～ 44	45～ 49	50～ 54	55～	計
男	0	0	0	3	6	4	3	6	22
女	1	2	3	0	0	1	0	2	9
計	1	2	3	3	6	5	3	8	31

・居住区

	中村区	緑区	南区	天白区	合計
人数	2	1	27	1	31

2. 概要等

(1) 運営の概況

- ・コロナの感染拡大があり新年度早々緊急事態宣言が発令され行政の要請に基づき開所時間の短縮、プログラムの見直し等を余儀なくされた 1 年になった。
- ・例年参加していた地域行事（南区社協主催のさわやかウォーク、南区民祭り）のバザー、地域の作品展等はコロナの影響で中止となる。
- ・プログラムも限定され人気のあった調理や外出なども行えず、利用者同士のトラブルが起きやすい傾向にあった。必要に応じて面談を行い、アンケートなどを通して積極的に利用者の意見を取り入れたプログラムを行って来たが大きな改善にまでは至らなかった。

(2) 5 か年計画の評価（進捗状況も含め）

- ・名古屋市地活Ⅰ型の事務局としてコロナ禍ではあったが、中村区、熱田区、南区の地活、名古屋市の 4 会場に分け WEB を使って地活Ⅰ型交流会を開催することができた。
- ・今後は情報発信や地域開放のプログラムなど、外部との連携をより活発に行い、コロナ禍においても出来ることを模索しながら地域の中での役割を強化することに努めていく。

3. 職員配置状況

(令和3年3月31日現在)

職種\雇用形態等	正規職員	パート	計	国家資格等
施設長(管理者)	1(1)		1	社会福祉士 精神保健福祉士
生活支援員等	2	0.4	2.4	精神保健福祉士 1 社会福祉士 1 看護師 0.4
合 計	3	0.4	3.4	

4. 安全防災対策

- (1) 2020年8月28日(金) 座学：災害時の身の守り方～大雨・水害編～
- (2) 2020年9月3日(木) 避難訓練・防災クイズ
- (3) 2021年3月11日(火) 避難訓練・水消火器訓練・避難所受付体験

5. 公益的取り組みの状況

- (1) 併設するリユースショップ『Re☆創庫さくら』での物品販売
 - ・認定NPO法人中部リサイクル運動市民の会が運営している『Re☆創庫さくら』にて長野県の野菜や果物、小池農産のジャムやジュースを定点販売した。利用者も一緒に値札付けや商品の袋詰めを行った。特に売れ行きの良い商品は、多めに発注をかけ在庫が常に置いてあるようにした。果物はコロナの影響により販売回数が減ってはいるもののRe☆創庫さくらの顧客から好評であった。また、関係機関への果物の配達も行った。
- (2) 地域のイベントの景品提供
 - ・11月13日(金)には南区障害者関係団体連絡会より受注したパチンコ遊戯場組合の景品260個を利用者とともに準備を行い納品した。

6. 添付資料

- (1) 実習、ボランティア等の受け入れ、職員研修状況 … 別紙1
- (2) 苦情等の状況 … 別紙2

実習・ボランティア等の受入状況

日 程 および 日 時	氏 名 もしくは 人 数	内 容
6/30~7/3 7/25、7/28	同朋大学(1 名)	精神保健福祉士現場実習
7/15、7/16	東京福祉大学(1 名)	精神保健福祉士現場実習

職員研修参加状況

期 日	研修名	主催	参加者
12/3	地域活動支援センター（I 型）交流会	クオーレ	岡部 今井
12/23	親愛の里学習会（依存症の現状について）	親愛の里	岡部 今井
2/2	防火管理責任者講習	名古屋市消防局	岡部
3/24	親愛の里学習会（依存症の現状と支援）	親愛の里	岡部 今井

令和元年度苦情受付一覧表

別紙2

No.	期 日	苦情申出者氏名	苦情の種類	苦情のレベル	原因	内 容	対 応	第三者委員会 員立会い
1	令和2年5月	JHさん	サービス内容 (職員の接遇) サービス内容 (質・量) 1 ・ 2	1	1 ・ 2	5/28、職員の接遇に対する不満を苦情センターに相談。風邪症状と聞いた際の職員の対応について、説明の分かりづらさ、言葉の不適切さを指摘。 上記対応中であったが6/2、別件として本人より、セカンドハーベスト再開時に開いての連絡が来ないこと、6月の予定表が送付されてこないことについて本人が苦情センターに相談される。苦情センターから本人に電話をかけてほしいことを言われ、電話をするもつながらず。その後本人より、名古屋市障害者支援課に職員から電話がなかったことを相談される。	6/16 本人の希望で第三者委員立ち合いのもと、本人、該当職員が話し合いを行った。体調不良時の利用を控えてほしいと伝える言葉が足りなかったことについて謝罪。また分かりやすいよう文章も作成、皆に周知、配布したことを伝える。6/16解決済み。	有
2	令和2年6月	JHさん	サービス内容 (職員の接遇) サービス内容 (質・量) 1 ・ 2	1	1	上記対応中であったが6/2、別件として本人より、セカンドハーベスト再開時に開いての連絡が来ないこと、6月の予定表が送付されてこないことについて本人が苦情センターに相談される。苦情センターから本人に電話をかけてほしいことを言われ、電話をするもつながらず。その後本人より、名古屋市障害者支援課に職員から電話がなかったことを相談される。	本人からの希望で職員が6/2に電話するも電源が入っておらず。同日、2回目の電話をかけるも、仕事前だったため電話を切られていた。 6/3に再度本人に電話連絡する。電話の行き違いがあったことの確認。また、セカンドハーベストに関しては、風邪が治ったら来所されると勝手に職員が想定したため、伝えることが遅くなってしまったことは謝罪する。 上記については、苦情センターには訴えたが、本人との話の中には出てこなかった。 名古屋市には、Jさんを含め利用者の方に周知しており、いつものように来所した際に持っていたと認識していたため、送付していないことを説明する。	無
3	令和2年7月	JHさん	サービス内容 (職員の接遇) サービス内容 (質・量) 1 ・ 2	1	1 ・ 2 ・ 4	7/31、以下の内容を名古屋市障害者支援課に相談。 ・職員が自分の後ろに座ることが改善されない ・和室が整理整頓されない ・ホワイトボードを動かしてほしい ・開所時間が短縮されるのであれば職員も手があぐ時間が増えるだろうから、これらの点もふまえて利用者が過ごしやすいようにしてほしい。	所長とは話したくないという本人の希望で、所長から名古屋市障害者支援課に回答する。以前から左記の内容については本人から訴えがあり、和室は8月中に片づける。ホワイトボードについては移動はできないと伝えていた。後ろのテーブルについては、検討しますと伝えていた。職員で検討した結果、JさんからJさんに報告していただく。次の日、回答に市からJさんが報告していただく。次の日、回答に納得がいかなず本人の希望で地活職員と面談。過去の経験から後ろに人がいるのが怖いので座って欲しくないと言った職員は理解していただいていたが、Jさんとしては、コロナウイルス感染予防の為に座って欲しくないという思いであった、ということに分かる。認識のズレを確認し、席の位置を調整。8/1解決済み。	無

4	令和3年2月	JHさん	1	サービス内容 (職員の接遇)	1	2	・2/1、職員の接遇に対する不満を苦情センターに相談。 職員Aと本人が温度計の会話している途中、急に別の職員Bが話に入ってきた。温度計を自分に突き付けてきた。それが怖くてショックを受けた。その後、職員Aに話を聞いてもらったが、「Jさんの言い方もきつかったですよね。職員Bも人間ですから。」と言われた言葉が残っている。障がい者なのに福祉職員から嫌な思いをさせられる。損をしている。悔しかった。	2/1職員（所長）が電話で話を聞く。 2/2非該当職員Cが話を聞き、職員Bと職員Cと本人で話し合う。 2/3職員Cと職員Aで本人の話しを聞く。 2/4に所長と本人で話しをしている。 2/6話の入り方、きつい口調であったことを職員Bから謝罪。職員Aから不愉快に思わせることが無いようにしていきたいことを本人に伝える。職員と話をしたことで落ち着く。 2/6解決済み。	無
---	--------	------	---	-------------------	---	---	--	--	---

※苦情の種類

1	サービス内容(職員の接遇)	… 4件	1	要望(本人の意向、意見、主張など)	… 4件
2	サービス内容(質・量)	… 3件	2	請求(法的責任に基づく権利の主張など)	… 0件
3	事故、被害、損害	… 0件	3	責任追及しレベル(契約不履行に伴う責任追及など)	… 0件
4	事業所運営	… 0件	4	その他	… 0件
5	契約内容	… 0件			
6	建物の構造	… 0件			
7	その他	… 0件			

※苦情の発生原因	1	説明・情報不足	…3件
	2	職員の態度・言動	…3件
	3	サービス内容	… 0件
	4	その他	… 1件

実績総数	4件
苦情受付	4件

令和 2 年度事業報告書

1. 種別・名称： 南区障害者基幹相談支援センター

2. 概要等

(1) 運営の概況

- ・相談においては、8050、9060 問題に直結するものが多く、チームを組んで支援をしていくケースが増えている。HC、HP、保護係、社協、くらサポ、弁護士など、多くの専門機関と関わり継続して支援を行ってきた。また南区基幹職員会議を毎週水曜に開催し本部・サテライトそれぞれに入った相談等情報共有し、複数名での対応を心がけた。
- ・自立支援連絡協議会内は、コロナ禍で思うように活動できない時期もあったが、ZOOM 等も活用しながら活動を行った。サテライトでは地域福祉力 WG を担当。今年度はコロナ禍で開催出来なかった「中学生向けピアサポーター養成講座」を、来年度 11 月開催に向けて準備を行う 1 年となった。
- ・コロナの影響に伴い、病院への職員の訪問、面会等が制限されたことによりケース相談、退院支援等の動きが取れない時期もあった。地域移行支援に関して予定の 3 名の支援については、コロナの影響はあったが行うことはできた。
- ・基幹として、他機関とチーム体制を組み訪問に同行するなど、アウトリーチが必要なケースが多くなっている。ニーズや支援方法を構築する上で、相談員自体が他職種の理解やコーディネート能力が必要とされるため、今後も幅広い分野との合同研修に参加し連携の取りやすい関係性を構築していく必要性を感じている。

(2) 5か年計画の評価（進捗状況も含め）

- ・自立支援連絡協議会の事務局として、各 WG の活動が円滑に行えるようサポートを継続している。事務局では、地域で活動している人たちの声を拾い上げ、反映させるとともに、常に地域課題と向き合えるような体制作りを行うようにしている。

3. 利用実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ相談件数	71	59	64	80	47	68	73	136	43	47	65	55	808
認定調査数	6	2	6	3	9	8	9	9	6	0	0	0	58

4. 職員配置状況

(R3年3月31日現在)

職種\雇用形態等	正規職員	計	国家資格等
相談支援専門員	1	1	精神保健福祉士 介護福祉士
合 計	1	1	

5. 安全防災対策

(1) 2021年3月11日(火) 避難訓練・水消火器訓練

事業所内で火災を伴う地震が発生した際の避難訓練を行う。消防署から水消火器もお借りし実際に体験した。実際に地震が起き、南区で避難所生活することになった際に記入する要配慮者の用紙を実際に記入してもらった。

6. 公益的取り組みの状況

- ・みなみ家族会主催行事へ必要に応じて参加。
- ・区福祉課より基幹が運営委託されている「ささえあいまちづくり事業」については、パネルや絵の展示など、事業趣旨に見合った開催方法を検討した。だがコロナの影響で具体化の見通しがたたなかった。また、準備期間の短さや、周知方法としてのポスティングなども、町内会での回覧板もコロナ感染防止のため、回覧を取りやめている町内会も多く、開催の実現が難しいと判断し今年度は中止となっている。

7. 添付資料

- (1) 利用実績 … 別紙 1
- (2) 実習、ボランティア等の受け入れ、職員研修状況 … 別紙 2
- (3) 苦情等の状況 なし

(当月分・相談支援を利用している障害者等の人数)

	実人数	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
障害者	85	0	0	1	80	2	1	0
障害児	0	0	0	0	0	0	0	0
計	85	0	0	1	80	2	1	0
内、新規	0	0	0	0	0	0	0	0

難病患者(その他の再掲)
0
0
0
0

(年度累計・相談支援を利用している障害者等の人数)

	実人数	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
障害者	85	0	0	1	80	2	1	0
障害児	0	0	0	0	0	0	0	0
計	85	0	0	1	80	2	1	0

難病患者(その他の再掲)
0
0
0
0

支援内容・方法

	福祉サービスの利用等に関する支援	障害や症状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援	家計・経済に関する支援	生活技術に関する支援	就労に関する支援	社会参加・余暇活動に関する支援	権利擁護に関する支援	差別に関する相談(権利擁護の再掲)	計	その他	権利擁護に関する支援	差別に関する相談(権利擁護の再掲)
訪問	20	1	1	1	0	3	5	11	1	1	0	0	54	11	0	0
同行	4	0	4	0	0	1	2	6	1	1	0	0	28	10	0	0
個別支援会議	0	1	3	0	0	1	1	1	0	0	1	0	8	0	0	0
関係機関調整	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
その他	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	12	6	0	0
小計	28	2	8	1	0	6	8	18	2	2	2	0	104	29	0	0
来所	10	1	12	14	0	3	38	14	10	4	4	0	123	17	0	0
来電話	100	2	77	97	0	18	50	58	13	4	4	1	527	11	0	1
来電子メール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	110	3	89	111	0	21	88	72	23	8	8	1	650	11	0	1
計	138	5	97	112	0	27	96	90	25	10	10	1	754	11	0	1
ピアカウンセリング(再掲)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

地域自立支援協議会	総会(金体会)	部会	研修会	その他	計
	0	0	0	0	0

事業運営費外

障害支援区分認定調査	サービス等利用計画(案)	サービス等利用計画	継続サービス利用支援	入居成立
52件	5件	4件	9件	0件

実習・ボランティア等の受入状況

日程 および 日時	氏名 もしくは 人数	内 容
なし		

職員研修参加状況

期 日	研修名	主催	参加者
9/24	相談支援連絡会(ZOOM)：研修会 「子どもの時からの意思決定について」 講師：桜花学園大学 柏倉秀克先生	南区自立支援 協議会	加納
10/28	虐待防止会議(基幹職員研修) ケース検討会 スーパーバイザー：日本福祉大学 木全先生	南基幹	加納
2/9	相談支援者初任者研修	名古屋市	佐藤

令和2年度事業報告書

1. 種別・名称： 保育所 親愛の里保育園

(1) 名事業区分及び定員・契約者数（現員数）

保育所 135 名

(2) 実績：月別保育実施

R2、4、1～R3、3、31

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
月保育日数	25日	23日	26日	25日	25日	24日
初日在籍児童数	118人	121人	121人	123人	125人	125人
出席率	49.3%	39.7%	81.8%	81.4%	59.2%	81.1%
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月保育日数	27日	23日	24日	23日	22日	26日
初日在籍児童数	126人	125人	124人	124人	121人	119人
出席率	80.2%	79.0%	79.4%	75.1%	79.3%	83.9%

2. 概要等

(1) 運営の概況

- ・例年に比べ4～5月は、新型コロナウイルス緊急事態宣言が発令され、半数以下の出席率になっている。又、8月と1月は、お盆お正月で、保護者のお休みがあり、共にお休みをしていることから、出席率は下がっている。他の月は昨年より少し上がり、80%前後の出席率になっている。
- ・特別支援を必要とする園児(今年度 16 名)が、在籍しており、4：1 の割合で加配保育士が配置されるが、クラス均等に支援が必要な子がいる訳ではなく、又支援の度合いも異なるため、加配保育士の配置に苦慮した。
- ・今年度は、正規職員の応募がなく、職員の数を確認するため、パート職員で補うかたちになった。書類を作成してもらうため、パート職員の賃金見直しをする。(170 円/ｈアップ)

(2) 5 か年計画の評価

方針 1：職員構成の見直し及び働きやすい職場を目指す。

- ① 主任 2 人体制にし、仕事量の軽減と保育士の指導の充実をはかる。
- ② 保育士の仕事量の軽減を図る。(勤務時間内での書類作成時間の確保など)
- ③ 土曜出勤の振休・休憩時間の確保・研修や有給消化のための代替要員の確保。

(評価) 主任 2 人態勢にしたことで、保育者への指導が行き届くようになり、書類の記入

の仕方や保育内容の見直しなど保育の充実を図ることが出来た。出来るだけ書類の持ち帰りを無くすため、勤務時間内に書類の作成が出来る様な態勢をとるよう配慮。又、振休代替保育士の採用で、お休みが取り易くなった。有給に関しても全職員(34名)が5日間以上取ることが出来た。今後も継続できるよう努める。

方針2：職員の資質向上を目指し、幅広い教養と専門的知識を深める。

① 経験年数に応じた研修計画を立て実施。

② 園外研修

(評価) 毎年職員の資質向上のため、研修を行ってきたが、今年度はコロナ感染防止策の観点から、研修自体が殆どなくなり参加することがなかった。次年度は、園内研修の充実を図りたい。

方針3 選ばれる園になるための独自性を図る。

① 障がい児を受け入れ子ども達が共に育ち合う保育を目指す。

② 三事業(子育て支援、一時保育、病児保育)を併設し地域や家庭支援に努める

(評価) 子ども達一人ひとり(障がい児も健常児も)を、大切にする保育を心がけてきたことで、子ども達も相手を思いやる気持ちが芽生え、共に遊びを考え楽しむことが出来るようになってきた。三事業においては、コロナ感染防止策の観点から休止をしてきたが、子育て支援のみ対応を考え実施。少しではあるが家庭支援ができた。次年度は三事業を再開し家庭支援に努めいく。

(3) 活動報告

・ 主な行事 年間 約33の行事を行っている。

・ 保育者の記録(年間計画・月指導計画・個人別指導計画・日誌など

・ 職員研修は、年間に(園外4件)の研修に参加

その他

・ アレルギー児(9名)の、給食・おやつのお誤飲誤食を無くすため、アレルギーが異なっても、代替食品は同じものを使用。チェック表を用いて調理員・園長・担任で確認を行う。

・ 今年度は、コロナウイルス感染拡大防止策の観点から、年間の行事の在り方について話し合い、約33件の行事を縮小(参加人数・場所・時間・催し物の数)して行う事にした。

(マスク着用、手洗い手指消毒、ソーシャルディスタンスなど配慮)

3.職員配置状況

(R3 年 3 月 31 日現在)

職種	員数	常勤	非常勤	保有資格
園長	1	1		保育士 29 名 幼稚園教諭 2 級 27 名
主任	2	2		
保育士	26	9	17	
保育補助	1	0	1	
調理員	3	2	1	栄養士 1 名
看護師	0	0	0	看護師・準看護師
事務員	1		1	
計	34	14	20	

4.安全防災対策

- (1)避難訓練実施状況 年間に13回の訓練を実施。
 (2)防犯訓練実施状況 年間に3回の防犯訓練を実施。

5.公益的取り組みの状況

一時保育(利用者 14 名)・病児保育(利用者 7 名)・子育て支援(1,749 名)の取り組み
 (コロナウイルス感染防止策のため休止していた時期がある)

6.主な施設整備等

- ・新型コロナウイルス感染症に伴う補助金で空気清浄機 4 台、アルコール消毒液、飛沫感染防止の亚克力ガード、マスク、手袋等を購入。
- ・害虫防止(蚊など)のため網戸修繕を行う。
- ・保育室出入口サッシ、保育室の畳の修繕、遊戯室舞台の照明を増加。
- ・給食室のスチコン修理。